

第43回

全国公民館研究集会

第56回

東海北陸公民館大会福井大会

第70回

福井県公民館大会



大会主題

「持続可能な社会を支える公民館」

～“人・つながり・地域”づくりに貢献する拠点を目指して～

開催期間

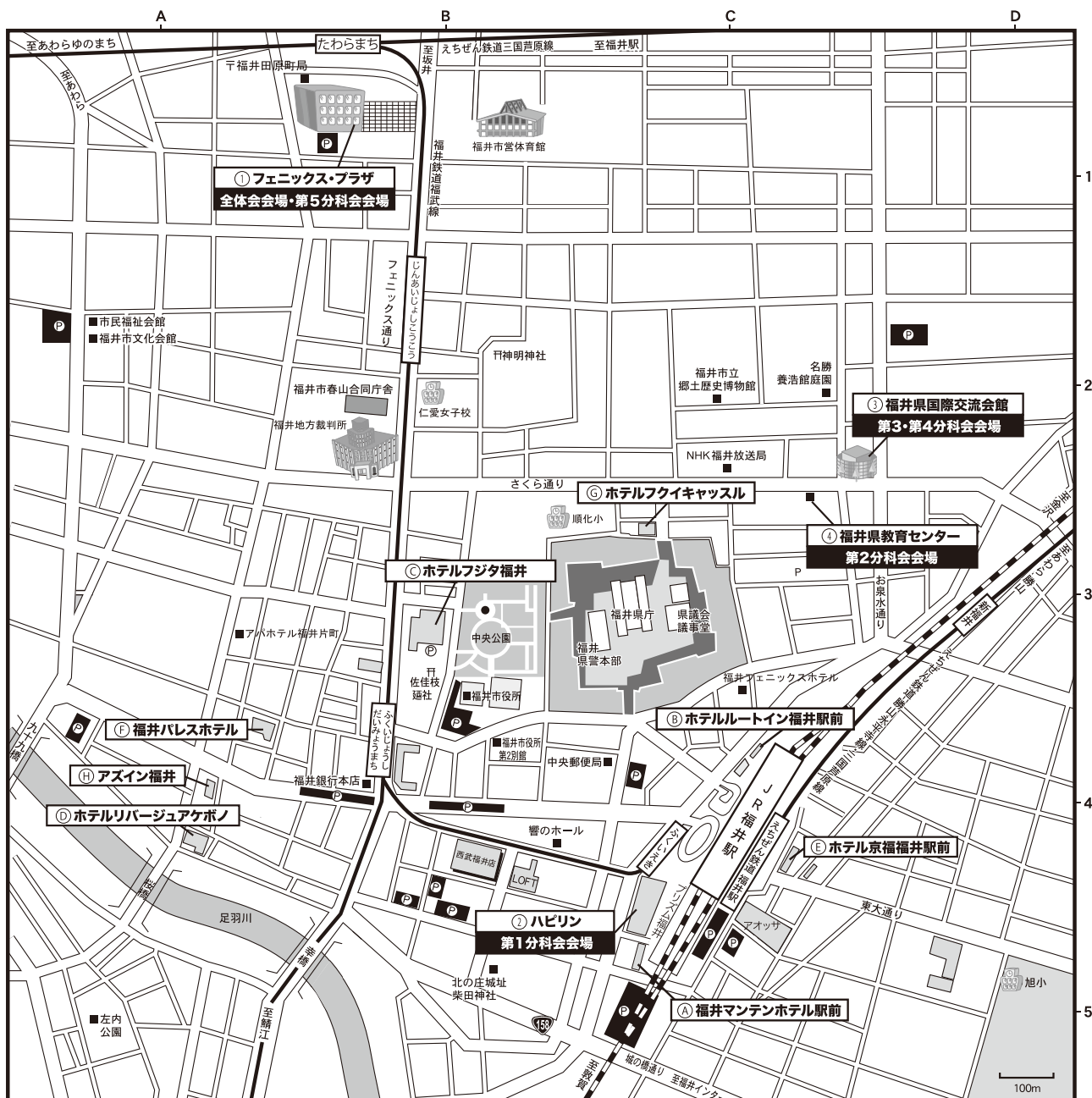
3.11.11 THU 12 FRI

会場

第1日目：全体会 フェニックス・プラザ

第2日目：分科会 ハピリン・福井県教育センター・福井県国際交流会館・フェニックス・プラザ

会場案内地図



◆宿泊施設一覧

案内施設番号	ホテル名	住所	電話番号
①	福井マンテンホテル駅前	〒910-0006 福井市中央 1-11-1	0776-20-0100
②	ホテルルートイン福井駅前	〒910-0005 福井市大手 2-1-14	0776-30-2130
③	ホテルフジタ福井	〒910-0005 福井市大手 3-12-20	0776-27-8811
④	ホテルリバービューアケボノ	〒910-0006 福井市中央 3-10-12	0776-22-1000
⑤	ホテル京福 福井駅前	〒910-0859 福井市日之出 1-18-1	0776-24-8800
⑥	福井パレスホテル	〒910-0023 福井市順化 1-5-18	0776-23-3800
⑦	ホテルフクイキャッスル	〒910-0005 福井市大手 2-19-5	0776-23-7700
⑧	アズイン福井	〒910-0006 福井市中央 3-4-20	0776-26-0011

◆全体会・分科会施設一覧

案内施設番号	施設名	住所	会場名
①	フェニックス・プラザ	〒910-0018 福井市田原 1-13-6	全体会会場・第5分科会会場
②	ハピリン	〒910-0006 福井市中央 1-2-1	第1分科会会場
③	福井県国際交流会館	〒910-0004 福井市宝永 3-1-1	第3・第4分科会会場
④	福井県教育センター	〒910-0005 福井市大手 2-22-28	第2分科会会場

〈表紙写真〉

上:越前海岸・水仙畑(越前町)

中:一乗谷朝倉氏遺跡・唐門(福井市)

下:足羽山・あじさいの道(福井市)

アトラクション

紹介

平岡 愛子氏・鎌野 太津子氏

マリンバ&ハープ演奏

福井県は日本で一、二を争うマリンバの、またハープは国内で唯一の生産地です。

マリンバとは低音を奏でる木琴の総称で、マレットと呼ばれるバチで鍵盤を叩いて音を出します。福井県のマリンバは世界のトッププロたちが認める品質を誇り、甘く、深みのある音色が特徴です。一方、ハープ(竖琴)は世界でも第二位の生産台数を誇り、そのシェアはなんと約20%に達します。優雅で柔らかな音色にはヒーリング効果があるとも言われ、音楽療法の現場でもよく利用される楽器です。

マリンバ奏者の平岡愛子氏、ハープ奏者の鎌野太津子氏は福井県のご出身で、気さくなお人柄と温かな雰囲気、県内外のコンサートやイベントでご活躍されています。

お二人の演奏を、ぜひお楽しみください。



平岡 愛子氏 プロフィール

鯖江市出身。洗足学園大学音楽学部器楽科卒業。打楽器専攻でトップの成績を収め、卒業時に優秀賞を受賞、卒業演奏会に出演。

第21回福井県新人演奏会に出演。オーケストラや吹奏楽団との共演や、「国民文化祭」「全国植樹祭」「福井しあわせ元気国体」等、福井県的主要行事に多数出演。その他、(公財)福井県文化振興事業団主催「越のルビー音楽祭」、福井新聞社主催「ちょっと素敵な音楽会」、マリンバデュオ“Pulse Du”での自主企画ライブ「打empathy」など各地で演奏活動を行っている。

2005年(財)げんでんふれあい福井財団主催「芸術新人賞」受賞。
2006年「福井県文化奨励賞」受賞。



鎌野 太津子氏 プロフィール

越前市出身。仁愛女子高校音楽科ハープ専攻卒業。大阪音楽大学音楽学部器楽学科ハープ専攻卒業。

ハープを雨田光示氏、海川佳代子氏に師事。「全国植樹祭」「福井しあわせ元気国体」等、福井県的主要行事に多数出演。

現在、ハープソロや様々な楽器とのアンサンブルで、演奏活動を行う傍ら、後進の指導にもあたっている。日本ハープ協会会員。青山ハープ教室講師。宮崎小学校ハープクラブ講師。

人・つながり・地域づくりに貢献する拠点を目指して

「持続可能な社会を支える公民館」

2021
in FUKUI

目 次

アトラクション紹介 「マリンバ&ハーブ」演奏	
開催要項	3
大会役員	5
ごあいさつ	6
令和3年度 全国公民館連合会表彰受賞者	8
第56回 東海北陸公民館大会表彰受賞者	10
令和3年度 福井県公民館連合会表彰受賞者	14
施策説明	15
記念講演	16
大会宣言文	18
分 科 会	
分科会一覧	20
●第1分科会 地域づくりと公民館	22
●第2分科会 家庭・学校・地域との連携	24
●第3分科会 高齢社会と公民館	26
●第4分科会 文化の継承・発展	28
●第5分科会 地域防災と公民館	30
次回開催県(富山県)からのご案内	32
資 料	
●東海北陸公民館連合会・各県連合会の概要	34
●東海北陸公民館大会のあゆみ(略年表)	36
●東海北陸公民館大会表彰受賞者一覧	40
●東海北陸地区の文部科学大臣表彰受賞公民館一覧	44
●東海北陸公民館連合会 会則	49

1. 趣 旨

人口減少、高齢化が進んだ今日において、ますます複雑多様化する社会の変化に対応し、持続可能な社会づくりを進めるには、そこに居住する住民自らが地域運営の担い手として主体的に関わることが最も重要である。さらに、度重なる自然災害や新型コロナウイルス感染症など、新たな危機の中で、地域活性化への貢献、地域コミュニティの維持への期待や要請は、これまで以上に大きくなっている。

この様な状況から、地域における社会教育の意義と役割はますます大きくなり、それを担う公民館には、社会に対してより開かれた場として、またSDGs（持続可能な開発目標）の下で、社会を支えるための新たな展開が求められている。

本大会では、公民館の果たすべき役割について考え、“人づくり・つながりづくり・地域づくり”に貢献することを目指したい。

2. 大会主題 「持続可能な社会を支える公民館」

～“人・つながり・地域”づくりに貢献する拠点を目指して～

3. 開催期日 令和3年11月11日（木）・12日（金） ※後日、動画配信予定

4. 会 場

〔第1日〕全体会：福井市 フェニックス・プラザ
〔第2日〕分科会：ハピリン 福井県教育センター 福井県国際交流会館
フェニックス・プラザ

5. 主 催 公益社団法人全国公民館連合会 東海北陸公民館連合会 福井県公民館連合会

6. 共 催 福井県教育委員会 福井市教育委員会

7. 後 援

文部科学省 全国公民館振興市町村長連盟 社会教育団体振興協議会
福井県 福井市 石川県教育委員会 富山県教育委員会 岐阜県教育委員会
愛知県教育委員会 三重県教育委員会 福井県市長会 福井県町村会
福井県社会教育委員連絡協議会 福井県社会教育団体連絡協議会 福井新聞社
NHK 福井放送局 FBC 福井テレビ

8. 参 加 者

福井県内の公民館関係者 社会教育関係者 学校教育関係者
地域づくり活動関係者 東海北陸及び全国公民館連合会の大会関係者

9. 日 程

【第1日】 令和3年11月11日(木) 全体会 フェニックス・プラザ 大ホール

- 12:00 ～ 13:00 受付
- 13:00 ～ 13:20 アトラクション 「マリンバ & ハープ」演奏
奏 者 平岡 愛子氏 ・ 鎌野 太津子氏
- 13:20 ～ 14:10 開会行事・表彰式
開会のことば 大会実行委員長 中 村 准
国 歌 斉 唱
主 催 者 挨 拶 東海北陸公民館連合会会長 江 岸 徹
公益社団法人全国公民館連合会会長 中 西 彰
表 彰 式 令和3年度全国公民館連合会表彰
第56回東海北陸公民館大会表彰
令和3年度福井県公民館連合会表彰
祝 辞 福井県知事 杉 本 達 治 様
歓迎のことば 福井市長 東 村 新 一 様
来 賓 紹 介
公民館の歌斉唱
- 14:10 ～ 14:30 文部科学省施策説明
文部科学省総合教育政策局地域学習推進課課長補佐 田 中 勉氏
- 14:40 ～ 15:40 記念講演 演 題 「一步 前に♥ わたしの人生」
講 師 フレンチレストランmorceau オーナーシェフ
ふくいブランド大使 秋 元 さくら氏
- 15:50 ～ 16:20 トークセッション 聞き手 公益社団法人全国公民館連合会理事
村 松 真貴子
- 16:20 ～ 16:40 閉会行事
大会宣言文 公益社団法人全国公民館連合会
東海北陸ブロック代表理事 廣 中 達 憲
大会旗引継ぎ 福井県公民館連合会会長から
富山県公民館連合会会長へ
次期開催県あいさつ 富山県公民館連合会会長 中 西 彰
閉会のことば 福井県公民館連合会副会長 堀 克 行
- 16:40 ～ 17:00 分科会関係者移動
- 17:00 ～ 17:30 分科会運営会議

【第2日】 令和3年11月12日(金)

- 第1分科会 ハピリン ハピリンホール
第2分科会 福井県教育センター 大ホール
第3分科会 福井県国際交流会館 特別会議室
第4分科会 福井県国際交流会館 第1・2会議室
第5分科会 フェニックス・プラザ 小ホール

- 9:00 ～ 9:20 受 付
9:20 ～ 12:00 分 科 会

大会役員



大会役員

大会長 東海北陸公民館連合会 会長（福井県公民館連合会 会長） 江 岸 徹

副大会長 東海北陸公民館連合会 副会長（公益社団法人 全国公民館連合会 会長）
（富山県公民館連合会 会長） 中 西 彰

運営委員 公益社団法人 全国公民館連合会 東海北陸ブロック代表理事
（愛知県公民館連合会 顧問） 廣 中 達 憲
公益社団法人 全国公民館連合会 事務局長 上 村 忠 男
富山県教育委員会 生涯学習・文化財室 室長 吉 田 学
富山県公民館連合会 事務局長 本 田 正 則
岐阜県公民館連合会 会長 三 輪 賢 司
岐阜県環境生活部 環境生活政策課 課長 山 田 浩 司
岐阜県公民館連合会 事務局長 河 口 洋二郎
石川県公民館連合会 会長 関 戸 正 彦
石川県教育委員会 生涯学習課 課長 清 水 茂
石川県公民館連合会 事務局長 石 江 政 信
愛知県公民館連合会 会長 高 松 透
愛知県教育委員会 生涯学習課 課長 大 道 伊津栄
愛知県公民館連合会 事務局長 山 本 武 志
福井県教育委員会 生涯学習・文化財課 課長 中 村 忠 嗣
福井市教育委員会 生涯学習課 課長 山 本 桂一郎
福井県公民館連合会 副会長 中 村 准
福井県公民館連合会 副会長 堀 克 行
福井県公民館連合会 副会長 雲 竜 常 寿
福井県公民館連合会 副会長 大 澤 満 男

事務局 福井県公民館連合会 事務局長 高 村 和 代
福井県公民館連合会 事務局員 福 井 真 紀
福井県公民館連合会 事務局員 宮 本 志寿佳



東海北陸公民館連合会

会長 江 岸 徹

“人・つながり・地域” づくりに貢献する 拠点を目指して

第43回全国公民館研究集会・第56回東海北陸公民館大会福井大会を開催するにあたりご挨拶申し上げます。
本日はご多用の中、文部科学省、福井県知事様、福井市長様をはじめ多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、誠にありがとうございます。

会員の皆様には、コロナ禍の中、ご参加いただき心よりお礼申し上げます。

昨年11月開催予定でした本大会は、新型コロナウイルスの影響で1年延期しての開催となりました。ただ、今なお感染の終息の見通しが立ちませんので、福井県以外の一般の会員の方々の参加はご遠慮いただき、規模を縮小しての開催となりました。

近年、多発する自然災害や環境破壊問題、価値観の多様化など社会情勢の急速な変化は公民館に新たな課題をもたらしています。

第10期中央教育審議会生涯学習分科会においても、SDGsの理念を踏まえ、「誰一人として取り残さない社会の実現」が謳われ、新しい生涯学習・社会教育の広がりや充実が求められています。これからの社会を築くために、自分は何をしたらいいのか、自分にはどんなことができるのか、一人ひとりが考えて行動することが今、改めて問われています。

本大会も主題を「持続可能な社会を支える公民館」と設定しました。サブ・テーマに掲げましたように、“人・つながり・地域”づくりに貢献する拠点を目指して、私たち公民館職員は地域の人たちの願いや思いを実現できる活動を通して、公民館が地域に愛され、地域にとってかけがえのない、なくてはならない存在であり続けられるよう日々研鑽に努めていこうではありませんか。

二日間にわたる大会が皆様にとって有意義なものとなることを願っております。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なご支援・ご協力をいただきました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



公益社団法人全国公民館連合会
会長 中西 彰

新型コロナウイルスに 負けない 公民館活動を

第43回全国公民館研究集会・第56回東海北陸公民館大会福井大会を開催するにあたり主催者の一員としてご挨拶申し上げます。

令和という新しい時代を迎えましたが、全世界に広まった新型コロナウイルス感染拡大の影響により、昨年度予定していた全国各地の全国公民館研究集会は、そのほとんどが中止や延期、または誌上やネット上での開催となるなど、開催形態の変更を余儀なくされました。また現場の公民館にとっても、コロナ対策に追われ、たいへんな試練の連続となりました。「つどう」「むすぶ」ことを大切にしてきた公民館に、人々が集えない状況が続き、一時は閉館や感染防止策の徹底等、さまざまな対応に迫られました。こうしたなか、本連合会でも「公民館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を策定いたしました。多くの公民館においても独自のガイドラインをつくり、それぞれのお立場で感染拡大抑制に努力をされてきたことと思います。

一方、人びとの生活はそんな状況のなかでも続いており、「人びとの学びや活動をとめてはいけない」という思いで、この事態においても、創意工夫によって充実した公民館活動が展開されてきました。このコロナ禍を通じて、「オンライン会議システム」や「テレワークに付随する環境整備」など、インターネットを通じた取り組みが一気に普及した公民館も少なくありません。このように、新型コロナウイルス感染拡大という事態においても、皆様のご尽力により充実した公民館活動が展開されてきたことに深く敬意を表します。

地域社会ひいては日本社会の輝かしい未来を切り拓くために、公民館は多くの関係機関や関係者と積極的かつ柔軟に連携・協働して、新しい時代の地域づくり・人づくりをこのコロナ禍においても、これからも振興発展していくことを期待しております。

おわりに、地元である福井県をはじめとする多くの皆様のご支援・ご協力に対し、また本大会開催のためにご尽力くださった福井県公民館連合会をはじめとした公民館関係者及び関係機関・関係団体の皆様に、深く感謝を申し上げます。

そして、公民館のこれからの限りない発展と、公民館職員の皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

令和3年度

全国公民館連合会表彰受賞者

優良職員表彰

県名	氏名	所 属	職 名
富山県	野村 由夫	上市町立柿沢公民館	主事補
岐阜県	大野 裕美	岐阜市早田公民館	館長
石川県	西川 鉄男	金沢市俵公民館	館長
愛知県	橋本 利和	半田市立住吉公民館	館長

永年勤続表彰

県名	氏名	所 属	職 名
富山県	下井 春美	富山市立愛宕公民館	主事
	久保 美由紀	射水市大島コミュニティセンター	事務職員
	佐野 千栄子	射水市大島コミュニティセンター	事務職員
	多田 時枝	射水市海老江コミュニティセンター	センター職員
	土田 恵子	砺波市立庄下公民館	主事
	黒田 美冬	魚津市下中島公民館	指導員
岐阜県	森 敦子	岐阜市芥見東公民館	主事
	小林 和子	岐阜市合渡公民館	主事
	桐山 直幸	岐阜市方県公民館	主事
	坂本 富久枝	郡上市小那比公民館	主事
	中島 武	郡上市大中公民館	主事
石川県	越田 智弘	金沢市野町公民館	館長
	安田 佳子	金沢市瓢箪町公民館	主事
	小倉 弘美	金沢市俵公民館	主事
	山本 千恵	金沢市大徳公民館	主事補
	前波 香	金沢市内川公民館	主事補
	菅田 清美	七尾市中島地区コミュニティセンター豊川分館	センター職員
	前田 いづみ	珠洲市立宝立公民館	主事
	若狭 美穂	羽咋市立上甘田公民館	主事
	小野 春美	白山市立林中公民館	主事
	小畠 直美	白山市立加賀野公民館	主事
	吉村 祐子	白山市立出城公民館	事務員
	森 みどり	白山市立石川公民館	事務員
	田多野 和彦	野々市市中央公民館	館長

県 名	氏 名	所 属	職 名
石 川 県	杉 田 和 代	内灘町立向粟崎公民館	主事
	飯 田 育 恵	内灘町立アカシア公民館	主事
	干 場 四十美	能登町立岩井戸公民館	主事
愛 知 県	山 田 茂 義	半田市立協和公民館	主事
福 井 県	伊 藤 敬 子	福井市松本公民館	主事
	小 林 茂 美	福井市日之出公民館	主事
	田 中 典 子	福井市社北公民館	主事
	南 部 恵	福井市社西公民館	主事
	上 野 正 代	福井市和田公民館	主事
	浅 井 雅 代	福井市河合公民館	主事
	円 光 淑 美	福井市安居公民館	主事
	山 下 英 美	福井市清水西公民館	主事
	吉 田 美 絵	福井市清水北公民館	主事
	新 屋 恵	福井市鷺公民館	主事
	前 川 俊 子	福井市文殊公民館	主事
	土 田 和 美	福井市美山公民館	主事
	浜 本 由 紀	小浜市口名田公民館	公民館主事
	沢 崎 尚 美	鯖江市北中山公民館	公民館主事
	吉 田 秀 子	越前市神山公民館	公民館主事
	岡 田 めぐみ	越前市吉野公民館	公民館主事
	中 西 真由美	越前市坂口公民館	公民館主事
	柴 野 文 江	越前市王子保公民館	公民館主事
	平 野 祐 子	越前市王子保公民館	公民館主事
	渡 辺 喜 恵	越前市味真野公民館	公民館主事
	山 本 佐智子	越前市岡本公民館	公民館主事
	杉 本 之 恵	越前市南中山公民館	公民館主事
	田 中 希江子	坂井市三国コミュニティセンター	コミュニティセンター主事
	大 壁 聡 子	坂井市磯部コミュニティセンター	コミュニティセンター主事
	高 岡 清 美	坂井市高棕コミュニティセンター	コミュニティセンター主事
	堀 祐 子	坂井市大石コミュニティセンター	コミュニティセンター主事

第 56 回

東海北陸公民館大会表彰受賞者

～ 令和3年度 ～

富 山 県

おかだ ちはる
岡 田 千 春

くろべしりつうらやまこうみんかん
黒部市立浦山公民館 主事

就任以来18年間、

- ・文化遺産や名所を紹介したマップを作成し、史跡看板や道標の設置、街歩き発見講座
- ・自ら防災士を取得し、毎年地区全体の防災避難訓練や研修（HUG・DIG等）
- ・医療情報を記したお助けカード（命のポケット）を作成し全戸配布
- ・蛍の観賞会や植え付けからの収穫祭
- ・小学校や保育園に出向き盆踊り練習会やわら細工教室

など積極的に企画・指導に携わり、地域振興と社会教育の推進に貢献した功績が顕著である。

みずい つとむ
水 井 勤

なめりかわしなめりかわひがしちくこうみんかん
滑川市滑川東地区公民館 館長

長年にわたり公民館職員として、地域住民の生涯学習・ふるさと教育を推進するため、関係団体と連携し様々な事業を展開している。国の重要無形文化財である「滑川のネブタ流し」継承のため、地元の小学生や保護者にも参加を呼びかけ公民館としても参加するほか、出前講座の講師紹介や世代間交流の活動費助成など自治公民館の活性化を図り、日頃から公民館を核としたまちづくりの実践に努めている。

岐 阜 県

やまだ いくえ
山 田 郁 恵

もとすしねおこうみんかん
本巣市根尾公民館 施設事務員

本巣市に合併後から引続き根尾公民館の諸事業の推進にあたり、精力的に従事し、子ども会活動、公民館講座等の振興に尽力してきた。

また、公民館活動推進の中核的な存在として地域住民との調整はもちろんのこと、社会教育・社会体育活動の普及・振興に活躍し、現在に至っている。

のむら としみち
野 村 利 道

かにしはるさとちく
可児市春里地区センター センター長

平成23年4月1日に春里公民館長に就任以来、10年の長きに渡り、館長（地区センター長）として卓越したアイデアと指導力で、公民館施設の陶芸窯を生かした教室の積極的な推進や館内展示スペースの充実、近隣小学校で米作りの指導を行うなど、地域の特色を生かした活動を行い、生涯学習や地域振興に多大なる貢献をいただいている。また、平成31年4月からは、可児市地区センター連絡協議会会長として市公民館地区センター連絡協議会会長として市公民館行政を牽引するとともに、社会教育委員として市の社会教育・生涯学習の推進に多大なる貢献をいただいている。

石川県

たかつじ さとる
高辻 聡

こまつしづきづこうかこうみんかん
小松市月津校下公民館 館長

地区校下の館長として地域住民の生活、文化及び教養を促進するとともに、平成19年にスタートした「元気で健康な町づくり・つきづ健康フェスタ」を、毎年志向を変えながら継承し住民の健康増進と親睦を図っている。

また、平成28年からは小松市公民館連合会の副会長として、行政と公民館との連帯と調整をも図り、諸会議や研修会にも積極的に参加し、他の模範となっている。

たけもと ゆきこ
竹本 由紀子

はくさんしりつやまじまこうみんかん
白山市立山島公民館 主事

主事・事務員として31年勤務し、地域に根ざした公民館活動の振興に努めている。中でも、「食と緑の郷づくり」・「ほたるの里づくり」事業では、豊かな自然環境と地域の特色を生かした食の安心安全、住民の協調と世代を超えた交流をテーマに活動を行い、地域の活性化を図ると共に、子供たちに環境や命の大切さを伝える活動にもなっており、その功績は高く評価される。

愛知県

のだ みつお
野田 満男

いちのみやしいまいせこうみんかん
一宮市今伊勢公民館 連区公民館長

平成23年度に公民館長に就任後、地域住民の交流と地域の活性のため、公民館の管理・運営に尽力した。地元住民の役員からなる公民館組織を作り、企画から運営までを地域住民の自主活動により行っている。その円滑な運営に努め、公民館事業を通して地域づくりに大きく貢献した。

また、平成29年度からは一宮市公民館長連絡協議会会長を務め、一宮市内23連区の公民館長のまとめ役となり、各連区公民館長の意識の向上や互いの公民館活動の情報交換に努めた。長年にわたり市の公民館行政を牽引した功績は多大である。

福井県

しげもり しゅんどう
重森 俊道

ふくいしくにみこうみんかん
福井市国見公民館 前館長

平成13年に福井市国見公民館館長に就任。以降20年の長きに渡り、ユニークな発想とバイタリティ溢れる行動力をもって、公民館で展開する各種事業に積極的に取り組んできた。

地域のまちづくり事業にも、各種団体や地域住民と連携を図りながら取り組み、地域コミュニティの活性化に大きく貢献したことから、地域住民からの信頼も厚い。

これらの活動により、社会教育の推進に果たした功績は大きい。

あらき みきお
荒木 幹夫

みなみえちぜんちよういまじょうちくこうみんかんのおぶんかん
南越前町今庄地区公民館湯尾分館 副館長

平成8年に公民館主事に就任して以来、春はトレッキング、夏は納涼祭、秋は体育大会そして冬はオセロやかかるた大会を実施するなど、中心となって様々な活動を支えてきた。特に、令和元年5月には、人文字大会を発案・企画し、小学校の校庭に「令和」の人文字を完成させるなど創意工夫で地域間の交流を図った。令和2年には副館長に就任。公民館活動を通じて地域連携や住民の学びの場を支援するなど、社会教育の推進に大きく寄与している。

第 56 回

東海北陸公民館大会表彰受賞者

～ 令和2年度 ～

富 山 県

え い だ し ん じ
永 田 晋 治

なめりかわしやまかつみちくこうみんかん
滑川市山加積地区公民館 館長

長年にわたり、山加積地区のスポーツ・PTA・自治会活動等の中心として活躍し、その知識、経験及び行動力で地域のリーダーとして、地域からの信頼が厚い。少子高齢化が進行した中山間地域において、公民館が地域の伝統行事の担い手として取り組んでおり、「納涼盆踊り」と「おしょうらい」では、多くの住民が集い帰省者も参加し地域の交流・活性化に貢献している。また、「左義長」など地域の伝統行事の伝承にも尽力している。

市公民館連絡協議会長として、新人館長の育成や情報交換の場を積極的に設け、市内9地区公民館の連携強化に取り組んでいる。

き た む ら と し こ
北 村 外志子

と な み し り つ た ね だ こ う み ん か ん
砺波市立種田公民館 主事

種田公民館は、地域の文化・暮らし・自然・風土を生かした活動を実践している。

主な活動としては、種田地区周辺を歩いてふるさとの良さを再発見する「あるある体験隊」や、もちを干すための縄を編むことで伝統的な文化に思いを馳せる「コリ餅あみ」などがある。これらのユニークな案は、北村主事の発案である。

「種田の地域力(種田力)を高める」ことを目標として、多年にわたる公民館活動を通して、地域づくり・人づくりに貢献している。

岐 阜 県

お お は し か ず よ し
大 橋 和 義

ようろうちようたぎこうみんかん
養老町多芸公民館 館長

長年にわたり、多芸公民館長として社会教育、生涯学習の拠点として学習講座を開催し、各種行事を行ってきた。多くの地区民が集い、憩う開かれた公民館を目指しながら、地区民の自主的な活動を促進し、地域との連携を図った公民館運営を行ってきた。また、3世代交流推進や地区の歴史を振り返る事業を企画実践してきた。

こ ざ か い の り え
小酒井 敬 乃

ぎふしながもりひがしこうみんかん
岐阜市長森東公民館 主事

公民館主事として、地域住民のニーズに合わせた公民館講座や、文化祭を通じ、住民が積極的に参加できる公民館事業を展開しているとともに、地域の社会教育の発展に努めている。

石川県

た か や ま あ き ら
高山 章

こまつしあわづこうかこうみんかん
小松市栗津校下公民館 主事

小松市栗津校下公民館子ども会育成部長として地域の子どもの育成に力をそそぎ、昭和63年4月に栗津校下公民館主事に就任以来、館長と連携して、校下行事である「文化祭」「社会体育大会」「各種競技大会」等の活性化に努めると共に、新たに「立志式」を企画立案し、地域おこし、地域活性化に成果をあげている。また、ブロック別公民館連合会や市公民館連合会主事会の中心となって熱心に活動しており、その功績は顕著である。

ひ さ の ま も る
久野 衛

かがしりついはしこうみんかん
加賀市立動橋公民館 館長

公民館長及び児童センター所長として、生涯学習に尽力された。

第55回東海北陸公民館大会愛知大会で、『地域のこどもは地域で育てる～「すずかけ塾」と「親子行事」～』と題し発表を行った。

平成25年に文部科学省の委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」に採択。勉強についていけない小学生を減らすため、塾を開講。

まちの先生や県内の大学生を講師に招き、学校と公民館と地域の連携を行った功績は多大である。

福井県

す ぎ た み つ よ
杉 田 美津代

ふくいしくにみこうみんかん
福井市国見公民館 主事

平成6年に福井市国見公民館主事に就任し、以降26年の長きに渡り、公民館で実施する各種事業に積極的に取り組んでいる。

特に、伝統文化に触れる機会を提供する家庭教育事業や、国見地区の歴史や文化を学ぶ講座を実施する際には、地域住民と連携を図りながら取り組み、地域コミュニティの活性化に大きく貢献している。

これらの活動により社会教育の推進に果たした功績は大きい。

も り せ み ち こ
森 瀬 美智子

さかいしひょうご
坂井市兵庫コミュニティセンター コミュニティセンター主事

昭和62年4月の勤務以来、33年の長きにわたり、地域住民の生涯学習やまちづくり活動の拠点となる公民館・コミュニティセンターの職員として、兵庫地区の特色を生かした活動の実践や区長会、まちづくり協議会といった各種地域団体等の支援・育成を行ってきた。

また、隣接する兵庫小児童や地域の子どものみからは「みっちゃん」の愛称で長年に渡り親しまれ、青少年育成活動を始めとする地域の社会教育推進の中心的な役割を果たしている。

令和3年度

福井県公民館連合会表彰受賞者

市 名	氏 名	所 属	職 名
福 井 市	北 島 喜 一	和田公民館	館長
	廣 瀬 行 雄	日新公民館	館長
	平 鍋 清 美	湊公民館	主事
	番 重 一 美	湊公民館	主事
	末 廣 崇 子	東安居公民館	主事
	南 部 まゆみ	啓蒙公民館	主事
鯖 江 市	橋 爪 真 弓	鯖江公民館	主事
	福 岡 玲 子	片上公民館	主事
あわら市	奥 野 隆 一	坪江公民館	前館長
	田 畑 紀代美	坪江公民館	前事務員
坂 井 市	篠 崎 史 子	雄島コミュニティセンター	コミュニティセンター主事
	木 下 尚 恵	加戸・公園台コミュニティセンター	コミュニティセンター主事
	東 晴 佳	高棕東部コミュニティセンター	コミュニティセンター主事
	橋 本 光 代	江留上コミュニティセンター	コミュニティセンター主事
永平寺町	大 関 政 英	志比南公民館	館長
	朝 日 進	志比北公民館	館長

講 師

課長補佐 田 中 勉 氏

This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines, similar to primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

記念講演



演 題

「一歩 前に♥ わたしの人生」

講 師

フレンチレストラン morceau オーナーシェフ

ふくいブランド大使 秋 元 さくら 氏

プロフィール

大学卒業後、航空会社に就職しCAとして世界各地を訪れる。世界の食文化を体験するうちに料理への興味が高まり、調理師学校に入学。

都内のフレンチレストラン等で料理の腕を磨き、2009年ソムリエでもある夫とともに「モルソー」を目黒にオープン。2018年日比谷ミッドタウンに移転。

NHKの料理コーナー出演のほか、リゾート列車のメニュー考案、レシピ本の発行など幅広く活動。一児の母。福井市出身。

トークセッション



聞 き 手

公益社団法人全国公民館連合会理事

村 松 真貴子

プロフィール

(公財)八王子市学園都市文化ふれあい財団理事長。フリーアナウンサー、エッセイスト。NHK「イブニングネットワーク」「こんにちは！と6けん」元キャスター。NHK学園・NHK文化センター「話し方・朗読講座」講師。

[illegible]

大会宣言文(案)

私たちは「持続可能な社会を支える公民館」～“人・つながり・地域”づくりに貢献する拠点を目指して～を大会のテーマに第43回全国公民館研究集会・第56回東海北陸公民館大会福井大会を開催しました。

今日の複雑多様化する社会の中で、私たちは度重なる自然災害に見舞われ、また新型コロナウイルス感染症という新たな脅威に直面しています。

過去に経験したことのない、これらの危機を乗り越え、安全・安心な社会を持続させるには、公民館職員の力量を高め、地域とともに知恵を出し合える公民館のあり方が問われています。人々がつながり、地域全体のつながりへと昇華、強固にしていく取組が求められます。

私たちは、地域の中核的機関として機能してきた公民館の存在意義を今一度認識し、地域社会を今後も持続・発展させ、未来を担う子どもたちへのより良い社会を築くために、この大会をとおして地域と共に学び、人のつながりを深めて行動することを基本に据え、以下のように将来にわたり持続可能な社会を支える拠点づくりを目指します。

1. 地域コミュニティの拠点としての役割を果たす公民館
2. 家庭・学校・地域との連携・協働を推進する公民館
3. 高齢者への支援と地域をつなぐ公民館
4. 地域の歴史と伝統文化を継承・発信する公民館
5. 地域の安全・安心と防災意識を高める公民館

令和3年11月11日

第43回 全国公民館研究集会
第56回 東海北陸公民館大会福井大会
参加者一同

人・つながり・地域づくりに貢献する拠点を目指して

「持続可能な社会を支える公民館」

2021
in FUKUI

分科会

第1分科会 地域づくりと公民館

ハピリン 3階 ハピリンホール

第2分科会 家庭・学校・地域との連携

福井県教育センター 4階 大ホール

第3分科会 高齢社会と公民館

福井県国際交流会館 3階 特別会議室

第4分科会 文化の継承・発展

福井県国際交流会館 2階 第1・2会議室

第5分科会 地域防災と公民館

フェニックス・プラザ 2階 小ホール

分 科 会 一 覧

分科会	分科会名	主 題	協 議 の 視 点	助 言 者
1	地域づくりと公民館	地域コミュニティの 拠点としての公民館の 役割	○地域の関係団体との連携 ○まちづくり・人づくりの拠点	福井大学 准教授 田中 志敬
2	家庭・学校・地域 との連携	家庭・学校・地域との 連携、協働を推進する 公民館のあり方	○家庭・学校・地域をつなぐ 公民館活動のあり方 ○多文化共生と教育支援活動	福井県立大学 教授 吉弘 淳一
3	高齢社会と公民館	高齢社会の対応のあり方	○高齢者の生きがいと自立への 支援 ○高齢者と地域をつなげる拠点	仁愛大学 准教授 青井 夕貴
4	文化の継承・発展	地域の伝統文化の継承・ 発信基地としての公民館	○地域の伝統文化の保存・継承 における公民館の役割 ○郷土愛を育み、伝える公民館	福井工業大学 客員教授 吉田 純一
5	地域防災と公民館	地域防災に果たすべき 公民館の役割	○防災拠点としての機能の充実 ○地域住民の防災意識の高揚と 取組	福井工業高等専門学校 教授 辻子 裕二

司会者	発表者	記録者	会場
全国公民館連合会 理事 村松 真貴子	福井県坂井市大関コミュニティセンター コミュニティセンター長 伊藤 浩	福井県坂井市雄島コミュニティセンター コミュニティセンター長 邑田 のぞみ	ハビリン 3階 ハビリン ホール
	福井県敦賀市栗野公民館 館長 伊原 隆	福井県坂井市高棕コミュニティセンター コミュニティセンター長 東 孔美子	
		福井県敦賀市栗野公民館 主事 山本 遼太	
富山県魚津市 上野方公民館 館長 馬場 均	富山県魚津市大町公民館 館長 大野 聡一	福井県小浜市加斗公民館 主事 佐藤 祐香	福井県 教育センター 4階 大ホール
	福井県高浜町青郷公民館 館長 山本 眞	福井県越前市王子保公民館 主事 平野 祐子	
		福井県小浜市中名田公民館 主事 吉田 幸子	
岐阜県公民館連合会 会長 三輪 賢司	岐阜県本巣市根尾公民館 館長 三本木 隆	福井県福井市一乗公民館 主事 松田 芳味	福井県 国際交流会館 3階 特別会議室
	福井県福井市国見公民館 館長 松井 司 主事 杉田 美津代	福井県あわら市中央公民館 主任 小林 和夫	
		福井県あわら市中央公民館 主査 伊藤 文隆	
石川県公民館連合会 会長 関戸 正彦	石川県能登町立秋吉公民館 館長 長谷 信一	福井県福井市日之出公民館 主事 小林 茂美	福井県 国際交流会館 2階 第1・2会議室
	福井県鯖江市立待公民館 館長 高島 政衛	福井県福井市旭公民館 主事 竹内 きみえ	
		福井県越前市服間公民館 主事 三田村 香苗	
愛知県津島市 神島田公民館 館長 大原 功詞	愛知県田原市田原東部市民館 館長 岡田 惣二	福井県福井市日新公民館 主事 石川 美沙紀	フェニックス ・プラザ 2階 小ホール
	福井県大野市小山公民館 館長 野田 博幸	福井県美浜町教育委員会事務局 主査 伊藤 弘昭	
		福井県越前町生涯学習センター 主事 山川 恭佳	

助言者	福井大学 准教授	田中 志敬
司会者	公益財団法人 全国公民館連合会 理事	村松真貴子
会場責任者	福井県敦賀市教育委員会生涯学習課 課長	河端 慎
運営責任者	福井県坂井市総合政策部まちづくり推進課 課長	北川 直規
記録者	福井県坂井市雄島コミュニティセンター コミュニティセンター主事	邑田のぞみ
〃	福井県坂井市高棕コミュニティセンター コミュニティセンター主事	東 孔美子
〃	福井県敦賀市栗野公民館 主事	山本 遼太

協働のまちづくりとコミュニティセンターの役割 ーセーフティーネット社会の構築を目指してー

福井県坂井市大関コミュニティセンター センター長 伊藤 浩

1 はじめに

(1) 協働のまちづくりを目指して

- ①平成18年に坂井市が誕生し、重点施策の一つとして「市民との協働」が掲げられました。
- ②その一環として平成19年に大関地区に「まちづくり協議会」が設立されました。
- ③平成27年には、地域コミュニティ活動拠点の役割を担って、公民館がコミュニティセンターに移行されました。

(2) セーフティーネット社会の構築を目指して

- ①コミュニティセンターは、コーディネート役にとどまらず、主体者としても行動します。
- ②コミュニティセンターは、住民との協働でセーフティーネット社会を構築していきます。

2 取組に至る経緯

- (1) まちづくり協議会は、設立後、祭りや防災訓練、敬老会等の事業を行ってきました。
- (2) コミュニティセンターは、まちづくり協議会の事務局の役割を担ってきました。
- (3) まちづくり協議会は、設立後5年から6年が過ぎた頃から活動のマンネリ化や役員の高齢化、会員の固定化が顕著になってきました。
- (4) まちづくり協議会の活動が、当初の目的であった協働のまちづくりと乖離してきました。
- (5) コミュニティセンターは、事務局を担うだけでな

くコーディネートしていくことの必要性を学びました。

- (6) 原点に返って、大関地区のすべての団体と小学校の子ども、そして、意識ある住民とともに大関の未来を創るためのワークショップ開催を決定しました。
- (7) ワークショップを踏まえて「大関助け合いのまちづくりプラン」を策定し、コミュニティセンターもコーディネート役にとどまらず主体者としての取り組みをはじめました。

3 事業内容

- (1) 大関コミュニティセンター運営協議会の設置
 - ①運営協議会に大関コミュニティセンターの全事業を報告していきます。
 - ②多方面からの意見を聞いていきます。
- (2) 「笑顔・大好き大関」プロジェクトを立ち上げ5か年計画でスタートしました。
 - ①Instagramによる大関地区の魅力を発信し、Instagramを活用した「笑顔大好き大関写真真コンテスト」を開催します。
 - ②住民参加のアイデアと手作りで居場所づくりの一環としてカフェコーナーをつくります。
 - ③地域住民の交流の場づくりを目指して、住民主体の「朝市」を始めます。
- (3) 「大関助け合いのまちづくりプラン」を核として、

多くの住民の繋がりをつくっていきます。

4 今後の課題

- (1) コミュニティセンターを住民参加型の活動拠点と

していくこと

- (2) 「大関助け合いのまちづくりプラン」を大関地区住民が主体的に共有すること

粟野コミュニティの成果と課題

福井県敦賀市粟野公民館 館長 伊原 隆

1 はじめに

(1) 敦賀市粟野地区の概要

粟野地区は敦賀市の南部に位置し、敦賀市人口の3分の1以上に当たる約2万3千人が暮らす住宅街。地区内には21の自治区(町内会)があり、中学校が1校、小学校が3校ある。

粟野公民館の現在の施設(鉄筋コンクリート3階建て)は平成12年10月完成。平成19年度から民間出身の館長を採用。職員は5人。施設利用者数=59,795人(令和元年度実績)

(2) 粟野コミュニティ運営協議会

区長会が中心となり、老人会や壮年会、子ども会やスポーツ協会、学校PTAなど地区内23団体で構成する「粟野コミュニティ運営協議会」を平成28年5月に設立。敦賀市初となるコミュニティ組織で、従来、団体単位で取り組んでいた事業をコミュニティが主催し、各団体が連携協力して実施。コミュニティ事務局は公民館に置かれ、館職員はコーディネーター役として支援。

2 粟野コミュニティ設立の経緯

(1) 粟野地区が抱えていた問題点

区長会では、「区長21人の連携や情報交換の不足」「区が単独で行政に要望しても対応が遅い」などの悩みがあり、各団体では、「メンバーの高齢化と固定化」「メンバーの負担増と後継者不足」「財源や人手不足による行事のマンネリ化と参加者の減少」などの問題点を抱えていた。

(2) コミュニティ組織の発足を区長会が提案

地域コミュニティづくりの議論を重ねた区長会は、各団体に対するコミュニティ発足の提案説明会を経た

後、平成28年2月に各団体代表者でつくる設立準備委員会を立ち上げるに至った。

3 主な事業内容

(1) 粟野ふる里まつり

毎年8月の夜、公民館駐車場で開く一大イベント。粟野中学校の吹奏楽部や女子児童ダンスチーム、スコップ三味線グループなどの地元住民によるステージショーが繰り上げられるほか、各団体出店の模擬店も並び、約5千人が集う。会場設営は午前中から21町内と23団体の代表者約150人で行い、本番では粟野中学校2年生も加わり会場の案内や清掃などを担当する。

(2) 芋粥セミナー

粟野地区が舞台になっている今昔物語の「芋粥」を学ぶ活動に取り組んだ粟野南小学校の児童たちが、芋粥スイーツを考案し商品化した。これを機に、大人たちも芋粥の歴史などを学ぼうとセミナーを2回開催。埋もれた地域の宝を生かした「地域おこし」を児童たちと一緒に考えた。

4 成果と今後の課題

粟野コミュニティの成果としては、「区長同士の団結力が増し行政の対応も迅速になった」「新たに区長OB会が発足しコミュニティに加盟した」「地域と学校の連携協力が強化された」「財源や人手が確保されるようになり新企画事業も実現し参加者が増えた」「事業を通じて世代間交流が図られるようになった」などが挙げられる。一方、課題としては、「若い世代にも参加してもらえる事業の検討」「各事業の運営サポーターの確保」「コロナ禍での事業企画」などがある。

助言者	福井県立大学 教授	吉弘 淳一
司会者	富山県魚津市上野方公民館 館長	馬場 均
会場責任者	福井県小浜市教育委員会生涯学習スポーツ課 課長	澤谷 欣弘
運営責任者	福井県越前市教育委員会生涯学習課 課長	橋本 美帆
記録者	福井県小浜市加斗公民館 主事	佐藤 祐香
〃	福井県越前市王子保公民館 主事	平野 祐子
〃	福井県小浜市中名田公民館 主事	吉田 幸子

小学校統合後の学校・家庭・地域との連携

富山県魚津市大町公民館 館長 大野 聡一

1 はじめに

魚津市大町地区は、かつては旧魚津町の中心地で富山湾に面した蜃気楼が見えるまちで、魚津城址や神社仏閣が数多く存在する歴史口マン溢れる地区である。現在は、魚津市13地区の中で最も高齢化率が高く、少子化が進んでいる地区でもある。

魚津市では各地区にあった13の小学校を平成31年度までに5校にまで統合し、残る2校も児童数の推移を見ながら当該地区との協議を重ね、市内小学校4校を目標に適正化を推進している。

2 取組に至る経緯

(1) 統合設立準備委員会の設立

平成30年に大町・村木・本江・上野方の4つの小学校が統合され、魚津市立「よつば小学校」として開校した。開校前2年間は、教育委員会主管の統合設立準備委員会が設置され、学校サイド・PTA・公民館関係者が一堂に集まり、校名・校歌・制服・PTA組織等に関して協議した。また、別に4地区公民館代表者が集まり、学校統合地域支援協議会を設立し、規約、後援会システムや学校との様々な対応について協議した。統合後は、魚津市立よつば小学校後援会として定期的に年3～4回、学校・PTA・地区の委員の構成で開催している。

3 事業内容

(1) 後援会について

1学期に1回のペースで開催し、児童の学校での様子、授業の在り方、学校行事等に関して学校側からの説明を受け協議し、地域として地区に於ける児童の様子等の意見交換等も行っている。また、各地区からの後援会費により、PTA事業及び学校運営に関わる費用等を拠出している。

(2) 学校・家庭・地域との連携

各地区運営審議会委員として、PTAより副会長1名、学校より担当教員1名の出席のもと、地区運営審議会を年4～5回開催し、地区開催事業への参加要請及び事業開催支援等を協議・審議している。

(3) コロナ禍に於ける学校との連携

昨年度は、コロナ禍に於いて学校行事への参加等の自粛がなされ、また地区事業への児童の参加依頼等もできず疎遠感が否めなかったが、今年度は「地区の素敵を見つけよう」と題して、3年生の総合的な学習の時間にビデオで各地区の魅力を伝えた。

4 今後の課題

(1) 教育の基本である「地域（ふるさと）を愛することを育むことの大切さ」を地域・学校・PTAがいかに連携して醸成するか。

(2) コロナ等感染を乗り越えて、地域が今後さらに学校・PTAとの連携を深めていけるか。

学校と地域をつなぐ公民館活動

～地域に誇りを持たせる活動を通して～

福井県高浜町青郷公民館 館長 山本 眞

1 はじめに

(1) 地域の現状と課題

高浜町は、福井県の最西端にあり、京都府舞鶴市に隣接している人口10,115人の小さな町である。若狭富士といわれる青葉山、アジアで初めて国際環境認証「ブルーフラッグ」を取得した若狭和田ビーチなど自然豊かな町であり、原子力発電所が稼働している原子力の町でもある。青郷地区は、京都府舞鶴市と隣接し、高浜町の公民館でも一番西に位置し、15集落、世帯数1,016戸、人口2,406名である。65歳以上の人口割合が33.2%を占める高齢化、人口減少が大きな課題となっている。この課題に対して公民館として、地域に愛着や誇りを持たせる取組を行うことで、故郷に愛着を持ち、故郷青郷を支える人を増やしていきたい。

2 取組に至る経過

(1) 学校組織の活用と公民館組織の活用と連携強化

青郷小学校…福井型コミュニティスクール推進事業
⇒青郷公民館長…家庭・地域・学校運営協議会委員、
地域コーディネーター

青郷公民館…小学生を対象とした公民館事業の企画
⇒青郷小学校長…公民館サポート会議委員に委嘱

3 事業内容

(1) 学校の地域と関係ある学習と公民館講座とのコラボした「青郷学」の開催。

公民館がコーディネーターとなり、講師と教員等連絡調整役をする。

3年生…青郷にいる昆虫(理科)

4年生…美しい星空観察(理科)

5年生…青葉山登山と青葉山の植物(理科)

6年生…青郷の歴史遺産(吉坂城堡)を学ぶ(社会科・総合的な学習)

※一流芸術家による体験学習の実施…プロのオカリナ・リコーダー奏者による演奏会と指導

(2) 地域を楽しく学ぶ「青郷楽(青郷四方山話)」の開催 地域にのこる伝統行事・史跡・言い伝えなどを学ぶ 青海神社の夏越しの大祓 日枝神社の例祭 日置区 の山の口講 西の鯖街道

4 成果と今後の課題

(1) 魅力ある青郷学・青郷楽の教室づくりのため青郷の宝探しと専門家の育成

(2) 一流文化・芸術に触れる機会づくり

(3) 地域を活性化する人づくり

教室・講座など自分で中身を考えて、企画、立案し、運営までもする人づくり

助言者	仁愛大学 准教授	青井 夕貴
司会者	岐阜県公民館連合会 会長	三輪 賢司
会場責任者	福井県勝山市教育委員会生涯学習・スポーツ課 課長	木船 栄士
運営責任者	福井県あわら市教育委員会文化学習課 課長	笹木 幹哲
記録者	福井県福井市一乗公民館 主事	松田 芳味
〃	福井県あわら市中央公民館 主任	小林 和夫
〃	福井県あわら市中央公民館 主査	伊藤 文隆

「ぼくら根尾うすずみ応援団！」 ～根尾を元気に！根尾から元気を！！～

岐阜県本巣市根尾公民館 館長 三本木 隆

1 はじめに

(1)本巣市根尾地区の概要

本巣市根尾地区は、能郷白山(1,617m)のふところに抱かれ、樽見鉄道の終点である樽見駅の近くには国指定天然記念物の根尾谷淡墨桜(樹齢1,500年)、その南の水鳥地区には濃尾地震の震源となった特別天然記念物の根尾谷断層がある。また近くの山中には、同じく特別天然記念物の根尾谷菊花石(地域指定)があり、豊かな自然や文化・歴史に恵まれている。

(2)公民館の現状と役割

人口1,312人、世帯数651(R3.3現在)、小中学生全員を合わせても48名で3世代同居家庭も少なく、高齢化率は54%を超えている。公民館教室は7つ。そのうち子ども対象は1つ。

教室から発展したクラブは、年々減少して現在わずかに2つ。婦人会・子ども会もすでになく、老人会も活動が衰えつつある。また、青少年育成や地域づくりに関わる団体も存続が難しく、公民館が学校を中心にした地区の人々の諸活動や交流連携の最後の場となっている。

2 取組に至る経緯

根尾うすずみ応援団は、平成31年3月13日に発足。中世以降、根尾を支配してきた根尾一族の末裔の1人が中日ドラゴンズの根尾昂選手であることを明らかにし、地区をあげて根尾選手を応援することにした。当地区の農協や郵便局、旅館や飲食店、新聞販売店など主たる機

関・店舗も参加。応援団の規約を作成し、全国の根尾一族にも発信して、地域の活性化を目指した。これまでの参加者は200人以上。

3 事業内容

(1)高齢者の生きがいと自立への支援

年会費1,000円を集めて、地区の特産である根尾米や自然薯を購入して、根尾選手の寄宿する中日ドラゴンズの昇竜館に持参した。根尾米を生産する高齢者も多く、米を作り送る活動そのものが地域の方々の自慢や誇りになりつつある。

(2)高齢者と地域をつなげる拠点

根尾一族の歴史を調べ書籍を発刊された根尾満氏を招き、令和元年9月25日に出版記念講演会を開催。国内各地域の根尾一族にも参加案内を送付、講演会終了後に根尾一族と地区の交流会を実施した。市内外から100人以上の参加者があり、以後も根尾一族のことで公民館に足を運んで頂ける方が増えた。

当地区の中学校の体験活動を支援して根尾米づくりを実施。事前に根尾一族の歴史の出前講座を行うと共に、応援団で作製した応援団Tシャツを配布して、応援団の高齢者と中学生・教職員がおそろいの青いTシャツで田植えを行った。中学校では、収穫した米を使用した特産物の製作と販売を計画しており、応援団は会員の高齢者の協力によりバックアップする。

4 今後の課題

少子高齢化で組織が維持できない状況で新しい活動や組織を作り上げていくには、新しい人材の発掘を進めた

り、組織や会合の在り方なども改善していったりすることが必要である。

公民館から飛び出せ！ 出前講座で学ぼう

福井県福井市国見公民館 館長 松井 司 主事 杉田 美津代

1 はじめに

- (1) 国見地区は福井市中心部から約28^分離れた越前海岸沿いに位置して、西は加賀越前国定公園、東は国見山(標高656m)に囲まれた風光明媚な地区である。エリア内人口7月1日現在で394世帯人口は971名で市65歳以上高齢化率47.16%は49地区中第2位と超高齢化地区である。また国見地区の面積は南北6^{km}、東西10^{km}にわたり福井市の中でも広い面積を保有する。
- (2) 国見地区の事業は、地区体育祭、夏祭り、文化祭、敬老会等で実行委員会を結成して地区民挙げて開催をしている。
- (3) 地区にはまちづくり協議の「いきいき国見」が組織されていて、毎年地区の魅力を発信するためのイベント「来て見て国見」を開催し、約3,000人の来場者を迎えている。

2 取組に至る経過

- (1) 国見公民館高齢者対象事業「すこやか学級」は、老人会会員を対象に構成して年間5～6回開催していたが、公民館までの距離が遠く、徒歩で参加しにくいこと、内容によって、参加人数に差があり高齢化も拍車がかかり年々減少傾向だった。
- (2) そこで受講者が参加しやすい環境をどう作るかを模索して、地区社会福祉協議会が毎週各町で自主運営をしている「シルバー喫茶」に、出前講座をしたいと申し出た。
- (3) 講座は高齢者の生活課題を中心とし、内容は防災と交通安全、健康維持の3テーマで、講師は消防署職員や市健康管理センター職員等とした。

- (4) 事務局は公民館が行い会員並びに町民にも周知を努めた。

3 事業内容

- (1) 講師との日程調整は公民館が行い、シルバー喫茶の設営は地区社会福祉協議会で、当日は公民館員が講師に随行し、講座の進行役を担った。
その結果受講者数は5倍以上に増加し、シルバー喫茶も講座開催日は普段より多数の参加者が訪れるようになった。また、話を聞くよりゲーム等するような内容も喜ばれた。
- (2) 地区社会福祉協議会との連絡調整不足で混乱を生じることもあったが、会を重ねることにより、円滑な運営が定着してきている。

4 今後の課題

- (1) シルバー喫茶自体を運営する地区社会福祉協議会がスタッフの高齢化という課題を抱えているので、円滑なスタッフの世代交代を公民館が支援する必要がある。身体の不自由な人も参加できるサポートが必要。更なる地元のサポート体制の充実を図っている。

助言者	福井工業大学 客員教授	吉田 純一
司会者	石川県公民館連合会 会長	関戸 正彦
会場責任者	福井県鯖江市生涯学習・スポーツ課 課長	齋藤 修一
運営責任者	福井県永平寺町教育委員会生涯学習課 課長	清水 和仁
記録者	福井県福井市日之出公民館 主事	小林 茂美
〃	福井県福井市旭公民館 主事	竹内きみえ
〃	福井県越前市服間公民館 主事	三田村香苗

伝統文化「アマメハギ行事」の支援活動

石川県能登町立秋吉公民館 館長 長谷 信一

1 はじめに

(1) 地域の沿革と概要

- ①秋吉公民館のある能登町は、石川県能登半島の先端に位置し、富山湾に面した自然環境に恵まれた地域で、海岸線一帯は能登半島国定公園に指定されている。
- ②現在の秋吉公民館は、昭和47年に秋吉小学校の跡地にて建設されました。
館下は4集落で、合わせて122戸、人口327人で、地域の高齢化率は46.5%と少子・高齢化の進んでいる小さな公民館。(H27年国勢調査)

2 取組に至る経緯

- ①当該地区には、「アマメハギ」と呼ばれる伝統行事が藩政期から続いている。
立春前夜の節分の日の夕方に、子供たちは鬼の面、蓑(みの)、前だれを着け、手には木製の出刃包丁、サイケと呼ばれる桶を持って、「アマー」「アマー」「怠け者はおらんかー」と言いながら家々をまわる農耕神事である。
- ②少子・高齢化が著しく進展する中、行事の伝承や継続が危ぶまれてきたので、公民館と保存会が協同し、各集落の保存会を一本化(能登町秋吉地区アマメハギ保存会)して、衣装・小道具づくり、情報交換を行うこととなった。

3 事業内容

- (1) 子供たちの衣装と小道具づくり等の支援
 - ①お面や衣装づくり教室を開催
 - ②小道具や竹灯り、オブジェづくり
- (2) 地域の伝統文化に対する意識の高揚と取り組み活動
 - ①紙芝居の出前講座(アマメハギ：紙芝居部会)
 - ②講演会の開催(訪れる神々の民族：文化庁)
 - ③ユネスコ登録時に懸垂幕や横断幕によるPR活動
- (3) 伝統文化の保存と伝承の取り組み活動
 - ①アマメハギ伝承館(展示と映像によるシアター)
 - ②保存会事務局を公民館に置く

4 今後の課題

- (1) 過疎化で少子・高齢化による主役の子供たちの減少
- (2) 地域住民の支えと伝統文化の維持と伝承



蓑作りの完成品

アマメハギ伝承館

文化の継承・発展 ～地域の伝統文化の継承・発信基地としての公民館～

福井県鯖江市立待公民館 館長 高島 政衛

1 はじめに

- (1) 鯖江市は北に県都福井市、南に越前市、西に越前町と隣接していて、人口6万9千人の商工業都市です。主な産業は眼鏡、繊維、漆器です。今や眼鏡フレームの国内製造シェア約90%を超える産地の中心です。
- (2) 鯖江市には10地区があり各地区に公民館が配置されています。立待(たちまち)地区は市の北西部に位置しています。人口8千7百人の自然豊かな人口増加地区です。

2 取組に至る経過

- (1) 鯖江市から、地域振興と活性化を図る目的で“ふるさと事業推進地区”に推薦された。平成3年(1991年)頃
- (2) 「近松の里づくり事業推進会議」(以下「推進会議」という。)を立ち上げ、立待地区で多感な幼年期を過ごした、江戸時代元禄期の三大文豪のひとりである近松門左衛門を核とした地域文化の掘り起こし、地域に眠る資源を最大限に開花させることにより地域活性化の活動を牽引することとした。その後、平成28年(2016年)三好修一郎福井大学名誉教授の調査・研究により発表された「近松鯖江誕生説」により、「近松が生まれた“さばえ”」を全国発信し、住民一人ひとりが地域の宝である近松門左衛門を誇りに思い、地域文化に関心を持てる事業を行うこととした。

3 事業の内容

- (1) たちまち近松まつり(以下「近松まつり」という。)の開催(毎年10月第1週の土・日)
- ・第1回平成10年(1998年)～第22回令和元年(2019年)
 - ・当初の数回までは、‘人形浄瑠璃’に親しんでもらうため、県外で人形浄瑠璃の継承・発展に取り組んでいる団体に公演を依頼…「真桑の人形浄瑠璃(岐阜

県)」、「富田人形共遊団(滋賀県)」

- ・その後、地元有志により立ち上げた鯖江人形浄瑠璃「近松座」の公演も恒例化し、観客を魅了している。
 - ・近松座とダンス、音楽集団との時空を超えたコラボレーション(新しい浄瑠璃の取り組み)
 - ・他団体との交流…南淡中学校(兵庫県)、知立中学校(愛知県)と全国子ども文楽サミット開催
- (2) 「たちまち近松人形劇団」、「たちまち子ども文楽」立ち上げ・活動支援
- …両団体共に「近松まつり」で公演している。
- (3) 近松わくわく講座の開催(令和元年(2019年)11月から隔月第3水曜日)
- 前述の「近松鯖江誕生説」により、近松少年が見た立待(鯖江)の風景がのちの近松作品にどう描かれているかを読み解こうというもの。(近松作品約100篇を目指している。)

4 成果と課題

(成果)

- ・「近松まつり」の20年以上の開催により地域活性化意識、住民の人形浄瑠璃に対する親しみの高まりと同時に観客席(300席)が満席の状況となってきた。
 - ・伝統文化を継承する団体への活動支援
- 昨年「たちまち子ども文楽」で3年間経験を積んだ女子中学生が「少年の主張」コンクール県大会で、作品テーマ「伝統文化を受け継ぐ」で知事賞に選ばれた。その後決意どおり「近松座」の会員となり初舞台を踏んだ。「たちまち子ども文楽」への長年に亘る地道な育成が実を結んだ。

(課題)

- ・推進会議役員の高齢化、構成メンバーである区長会、各種団体構成員の単年度交代が進んで一体感が薄れてきている。また、まつりの催し物のマンネリ化、経費の増大等により地元負担が増加傾向にある。
- ・「推進会議」の想いを地域住民と共有すること。

助言者	福井工業高等専門学校 教授	辻子 裕二
司会者	愛知県津島市神島田公民館 館長	大原 功詞
会場責任者	福井県大野市地域づくり部地域文化課 課長	中屋 克己
運営責任者	福井県美浜町教育委員会事務局 局長	瀬戸 慎一
記録者	福井県福井市日新公民館 主事	石川美沙紀
〃	福井県美浜町教育委員会事務局 主査	伊藤 弘昭
〃	福井県越前町生涯学習センター 主事	山川 恭佳

地域における防災の推進

―避難所としての公民館の取組―

愛知県田原市田原東部市民館 館長 岡田 惣二

1 はじめに

(1) 田原市の概要

田原市は、愛知県の南端に位置し、三方を海に囲まれた渥美半島のほぼ全域が市域となっており、豊川用水の通水により飛躍的な発展を遂げた農業、豊かな海の幸に恵まれた水産業、三河湾臨海工業地帯田原地区を中心とした製造業、海・山の自然や数多くの歴史的資源に恵まれた観光業など、産業のバランスが取れた地域である。

(2) 市民館の紹介

田原東部校区は、昭和48年に県下初の旧自治省のモデル・コミュニティ地区に指定され、昭和50年に現在の分館である田原東部コミュニティセンターが完成し、現在も多くの団体が施設を利用し、活動が盛んに行われている。

2 取組に至る経緯

(1) 市民館の災害時避難所としての活用

地震、津波、大雨、台風などにより、大災害が全国で発生しているなか、本市は市民館が災害時の避難所に指定されていることもあり、施設の整備と備蓄資材の充実化を図ってきた。

(2) 地域住民の防災意識の高揚への取組

地域住民の防災意識の高揚を図るため、防災備蓄資材を展示し、講習会を開催している。

3 事業内容

(1) 小学校児童対象の防災教室

毎年、小学校児童を対象とした防災教室に協力している。

(2) 避難所運営ゲーム（HUG）

校区自治会役員及び民生委員が避難所運営ゲームを通じ、それぞれ事情を抱えた避難者への対応や、新型コロナウイルス感染予防に重点を置いた避難所運営を学んだ。

(3) 田原市総合防災訓練

市や自主防災会、防災関係機関との緊密な連携による実践的な防災訓練を体験した。

(4) 各自治会自主防災会一斉防災訓練

校区内の各自治会（自主防災会）が一斉に独自の防災訓練を実施した。

4 今後の課題

(1) 小中学生の防災学習

子供の頃から常に防災意識を持ち、災害時の家庭での役割を考えておくことを学ばせる。

(2) 災害の伝承や過去の災害の記録保持

過去に地域で起こった災害記録を保持・伝承し、今後の災害も詳細にまとめ保管しておく。

(3) 校区全体の防災訓練

避難所の設置が校区単位のため、自治会の訓練のみでなく校区全体の防災訓練を実施する。

(4) 災害時避難行動要支援者への対応

独居高齢者や障害者など災害時要支援者に対し、民生委員と連携した対応を行う。

公民館での防災の取り組みと地域づくり

福井県大野市小山公民館 館長 野田 博幸

1 はじめに

(1) 大野市の概要

大野市は福井県東部の内陸に位置し、北は石川県白山市と勝山市、東と南は岐阜県高山市・郡上市・関市・本巣市・揖斐川町、西は福井市と今立郡池田町に接しています。総面積は、872.43平方キロメートルで、福井県で最も面積が大きく、その約9割を森林が占める自然にあふれたまちで、日本百名山の「荒島岳」をはじめ、四方をぐるりと美しい山々に囲まれています。

昭和29年の合併で、大野郡大野町・下庄町・乾側村・小山村・上庄村・富田村・阪谷村・五箇村が合併し大野市となりました。また、平成17年には、大野市と大野郡和泉村とが合併し、現在の大野市となりました。この昭和と平成の合併前の区域にそれぞれ公民館が設置されています。

(2) 大野市の公民館の特徴

市内9か所の公民館の館長及び職員は、市の職員(会計年度任用職員を含む)が配属されています。特に館長はすべて市の正職員が担っています。

また、地域づくりについて、早期から地元と一体となって取り組んできており、地区内で活動している区長会やよくする会など各団体の事務局を公民館が担うなど、地域に根差した公民館として活動してきました。

2 地域づくりの課題の変化と体制の整備

公民館として地域づくりに取り組むなかで、課題そのものが変化していると認識しており、これまでの課題に加え、防災・空き家・福祉・公共交通などの分野の課題解決に向け、市の各担当課と公民館が連携して取り組んでいます。

令和3年4月からは公民館の所管を市長部局に変更し、地域づくりにより重点を置いた体制を構築しました。もともとと同じ職員同士、連携は取れていましたが、よりスムーズな連携や情報共有が期待されています。

3 事業内容

(1) 防災スイッチの勉強会

小山地区では、令和元年度と令和2年度に2回に渡って「防災」について勉強会を開催しました。キーワードは

「防災スイッチ」です。人間は、実際に災害が目前に迫り、避難を呼びかけられても「自分は大丈夫」や「まだ大丈夫」と考えてしまいがちで、避難ができないと言われている。避難勧告がでてでも避難したのはごく少数であった事例や、何度も避難できるタイミングがあったのに避難できなかった事例が報告されています。

防災スイッチとは、集落や家族で、避難のスイッチとなるものを事前に話し合い、決めておきましょうという考え方です。ただし、家の場所や集落の地形などにより、スイッチとなるべきものは様々であるため、自分たちで状況を確認し話し合いを行うことが重要となります。そして、「〇〇川の水位が、〇〇を超えたら避難する。」や「〇〇山から流れ出ている〇〇の水が濁ったら避難する。」「〇〇の沢の水が少なくなったら避難する。」というスイッチをみんなで決めることが重要と学びました。

この集落や家族で話し合うということが、地域コミュニティの強化に繋がり、地域づくりに繋がります。

(2) 他の公民館での取り組み

他の公民館もそれぞれ工夫を凝らした講座等を行っています。例えば福祉分野と連携して「Withコロナ時代の避難所運営と避難生活」や食と絡めた「災害食deランチ」、楽しく防災を学ぶ「防災キャンプ」などを実施していますし、自衛隊の方に防災テクニックを学ぶ講座や非常食セットづくりなども行ってきています。それぞれの創意工夫が感じられ、良いところはどんどん取り入れていきたいと思っています。

4 今後の課題

防災についての取り組みに、終わりはありません。常に地区の皆さんに提案し、少しでも多くの方に関わってもらえるよう続けていく必要があります。

防災スイッチについて言えば、重要なポイントは「地域や家族で危険な箇所や地域の特徴などについて話し合う。」ということなので、それぞれの集落に講師を派遣する形で入って行き、ワークショップを行い、地域で話し合いができるようにしたいと考えています。また、これがきっかけになり、家族で防災について話し合うことに繋がられるように仕掛けていきます。

次回開催県 富山県

第44回 全国公民館研究集会 第57回 東海北陸公民館大会 富山大会

1 開催期日

令和4年9月8日(木) 全 体 会

9日(金) 分 科 会

2 会 場

第1日目:全体会 富山県民会館

第2日目:分科会 富山県民会館・パレブラン高志会館
サンシップとやま・北日本新聞ホール

3 日 程

第1日目(全体会)

12:00	13:00	13:20	14:10	14:50	15:00	16:10	16:25	16:45	17:30
受 付	ア ト ラ ク シ ョ ン	開会行事 表彰式	文部科学省 施策説明		記念講演	閉 会 行 事			分 科 会 打 合 せ

第2日目(分科会)

9:00	9:20	12:10	12:20
受付	分科会 (発表・研究討議・まとめ)	閉会	

4 その他

参加費 3,000円

※詳細は後日ご案内いたします。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

資 料

東海北陸公民館連合会

各県の概要・あゆみ

- 1 東海北陸公民館連合会 各県連合会の概要
- 2 東海北陸公民館大会のあゆみ（略年表）
- 3 東海北陸公民館大会表彰受賞者一覧
- 4 東海北陸地区の文部科学大臣表彰受賞公民館一覧
- 5 東海北陸公民館連合会 会則

富山県公民館連合会

所在地 〒930-0096 富山市舟橋北町 7-1
富山県教育文化会館内
TEL (076)444-5777
FAX (076)444-5777
e-mail: tomico7@iaa.itkeeper.ne.jp

会長 中 西 彰
副会長 中 村 茂 信 高 井 清 高
馬 場 均 塚 八 栄 治
岩 坪 智恵子
事務局長 本 田 正 則
事務局員 木 本 聡 子

概 要

- 1 発足年月日 昭和 26 年 1 月 30 日
- 2 予算総額 10,480,120 円
- 3 県内公民館数 322 館
- 4 特色ある事業
 - ① 公民館活動研究委嘱事業(県内 5 館)
 - ② 公民館地域づくり研修会助成事業(12市・郡)
 - ③ 公民館初任者研修会の開催
 - ④ 公民館長研修会、公民館主事・指導員等研修会の開催
 - ⑤ 優良自治公民館表彰、永年勤続職員表彰
 - ⑥ 県委託「はつらつ公民館学び支援事業」の実施
 - ⑦ 先進事例を学ぶ研修会の開催
 - ⑧ 県公連会報を年 3 回発行

岐阜県公民館連合会

所在地 〒500-8384 岐阜市藪田南 5-14-12
岐阜県シンクタンク庁舎内
TEL (058)278-0133
FAX (058)278-0136
e-mail: gisyakyo@estate.ocn.ne.jp

会長 三 輪 賢 司
副会長 青 木 琴 美
小 林 哲
事務局長 河 口 洋二郎
事務局員 保 城 由 美

概 要

- 1 発足年月日 昭和 37 年 4 月 2 日
- 2 予算総額 3,094,760 円
- 3 県内公民館数 271 館
- 4 特色ある事業
 - ① 岐阜県社会教育推進大会
(社会教育委員との合同事業)
 - ② 岐阜県公民館優良職員表彰
 - ③ 岐阜県公民館名簿
 - ④ 機関紙「ぎふ公民館」発行

石川県公民館連合会

所在地 〒921-8105 金沢市平和町 1-3-1
石川県平和町庁舎内
TEL (076)245-6580
FAX (076)245-6584
e-mail: ishikouren@bz01.plala.or.jp

会長 関 戸 正 彦
副会長 堂新橋 孝 山 谷 道 明
古 今 幹 人
事務局長 石 江 政 信
事務局員 大 橋 香 奈 恵

概 要

- 1 発足年月日 昭和 24 年 4 月 1 日
- 2 予算総額 7,098,000 円
- 3 県内公民館数 312 館
- 4 特色ある事業
 - ① 石川県公民館大会
 - ② 石川県公民館連合会表彰
(館長表彰・職員表彰)
 - ③ 公民館職員研修(館長・主事)
[基礎・専門コース]
 - ④ 石川県市町公民館長研修会
 - ⑤ 広報紙『公連いしかわ』年 2 回発行

愛知県公民館連合会

所在地 〒460-8534 名古屋市中区三の丸 3-1-2
愛知県教育委員会生涯学習課内
TEL (052)954-6780
FAX (052)954-6962
e-mail: syogaigakushu@pref.aichi.lg.jp

顧問 廣 中 達 憲
会長 高 松 透
副会長 辻 清 岳 仙 田 剛 宏
伊 藤 功 二 塚 本 吉 郎
事務局長 山 本 武 志
事務局員 天 野 拓 夫

概 要

- 1 発足年月日 昭和 32 年 8 月 1 日
- 2 予算総額 1,596,509 円
- 3 県内公民館数 335 館
- 4 特色ある事業
 - ① 愛知県公民館連合会表彰
(公民館・公民館職員・公民館関係者)
 - ② 地区別研修会の開催(4 支部)
 - ③ 研究公民館委嘱
(各支部1館に委嘱、地区別研修会で発表)
 - ④ 公民館と学校の連携構築補助事業
(4 公民館にて実施)
 - ⑤ 公民館主事等社会教育担当者研修会
(年 4 日開催)
 - ⑥ 愛知県社会教育委員連絡協議会との合同研修会
の実施
 - ⑦ 広報誌の発行

福井県公民館連合会

所在地 〒918-8135 福井市下六条町 14-1
福井県生活学習館内
TEL (0776)41-4077
FAX (0776)41-4077
e-mail: f-kouren@kore.mitene.or.jp

会長 江 岸 徹
副会長 中 村 准 堀 克 行
雲 竜 常 寿 大 澤 満 男
事務局長 高 村 和 代
事務局員 福 井 真 紀
宮 本 志寿佳 (臨時)

概 要

- 1 発足年月日 昭和 25 年 5 月 1 日
- 2 予算総額 8,025,000 円
- 3 県内公民館数 203 館
- 4 特色ある事業
 - ① 福井県公民館セミナー
〔前期〕県内施設で一泊二日の研修
〔後期〕一日研修
 - ② 広報紙コンクール
A コース(紙面が6ページ以上)
B コース(6ページ未満)
 - ③ 福井県公民館大会
福井県公民館連合会表彰
広報紙コンクール入賞館表彰
 - ④ 県公連広報紙「こうれんふくい」の発行
(年 1 ～ 2 回)

東海北陸公民館大会のあゆみ 〔略年表〕

年	東海北陸地区の主な動き	全国の主な動き
昭和21年 (1946)		7. 5 文部次官通牒「公民館の設置運営について」 11. 3 日本国憲法公布
昭和22年 (1947)		3. 31 教育基本法第7条（社会教育）に「公民館」が 明記される。 4. 17 地方自治法施行 5. 3 日本国憲法施行
昭和23年 (1948)		7. 15 教育委員会法施行 11. 3 文部大臣全国優良公民館表彰（第1回）
昭和24年 (1949)		1. 「成人の日行事」について文部次官通達 6. 10 社会教育法施行
昭和25年 (1950)		3. 第1回都市公民館大会（別府市） 4. 30 図書館法施行
昭和26年 (1951)		11. 30 全国公民館連絡協議会（全公連）結成 12. 1 博物館法施行
昭和27年 (1952)	4. 14～16 第3回全国都市公民館大会 （金沢市公会堂）	5. 29～30 第1回全国公民館大会（福島市） 11. 1 市町村に教育委員会が義務設置となる。
昭和28年 (1953)	5. 20～22 社会教育法施行5周年記念第3回全国公 民館大会（富山市公会堂：1,607名）	8. 14 青年学級振興法施行 9. 1 町村合併促進法施行
昭和29年 (1954)		2. 16 社会教育審議会建議「社会教育施設の整備につ いて」 5. 20 全国優良公民館職員表彰制度ができる。 （全公連）
昭和30年 (1955)		12. 全公連「公民館法」草案要綱をつくる。 「月刊公民館」創刊
昭和31年 (1956)		6. 30 地方教育行政の組織及び運営に関する法律
昭和32年 (1957)		12. 10 社会教育審議会答申「公民館の充実方策につ いて」
昭和33年 (1958)		
昭和34年 (1959)	6. 17～19 第1回東海3県公民館大会（津市） 第1回北陸3県公民館大会（富山市） 第8回全国公民館大会 （小松市公会堂：2,300名）	12. 28 文部省告示「公民館の設置及び運営に関する基 準」
昭和35年 (1960)	第2回東海3県公民館大会（高山市） 第2回北陸3県公民館大会（鶴来町（石川））	9. 14 全国の公民館マーク制定される。
昭和36年 (1961)	第3回東海3県公民館大会（一宮市） 第3回北陸3県公民館大会（敦賀市）	6. 16 スポーツ振興法施行
昭和37年 (1962)	12. 5～6 第4回東海3県公民館大会（津市） 第4回北陸3県公民館大会（富山市） 東海北陸6県の県公連会長・事務局長会議 を開き、東海北陸公民館連絡協議会結成準 備会を結成。（山中温泉（石川県））	2. 21～23 第1回公民館職員研究集会 （国立中央青年の家）
昭和38年 (1963)	10. 8～9 東海北陸公民館連絡協議会発会式・第1回 東海北陸公民館大会を開催 （石川県婦人会館（金沢市）：324名） 東海北陸公民館優良職員表彰を各県より2 名の推薦を得て実施（以後毎年表彰）	2. 文部省「進展する社会と公民館の運営」刊行
昭和39年 (1964)	8. 10～11 第2回東海北陸公民館大会 （岐阜県町村会館：345名）	3. 31 公民館振興国会議員懇談会が発足
昭和40年 (1965)	9. 21～22 第3回東海北陸公民館大会 （福井市公会堂：563名） 東海北陸公民館連合会と改称	2. 18 「全国公民館連合会」社団法人として認可 11. 16 公民館の歌、公民館音頭を発表
昭和41年 (1966)	8. 23～24 第4回東海北陸公民館大会 （名古屋守山公会堂：555名）	6. 27 全公連「公民館のあるべき姿と今日的指標」 （中間報告）

年	東海北陸地区の主な動き	全国の主な動き
昭和42年 (1967)	9. 8～ 9 第5回東海北陸公民館大会 (高岡市公民館：1,105名)	9. 1 全公連「公民館のあるべき姿と今日的指標」公表
昭和43年 (1968)	9. 20～21 第6回東海北陸公民館大会 (松阪市公会堂：491名)	6. 15 文化庁設置 全国で「明治百年」記念行事催される。
昭和44年 (1969)	9. 25～26 社会教育法施行20周年記念第7回東海北陸公民館大会 (石川県社会教育センター、北陸放送会館：722名)	12. 3 公民館振興市町村長連盟が発足
昭和45年 (1970)	8. 10～11 第8回東海北陸公民館大会 (岐阜市市民会館：669名)	5. 18 全公連第二次専門委員会「都市化に対応する公民館」「公民館をめぐる諸制度改善の具体策」を報告
昭和46年 (1971)	8. 27～28 第9回東海北陸公民館大会 (福井県民会館：785名) 10. 13～15 第20回記念全国公民館大会 (金沢市観光会館：1,767名)	4. 1 地方交付税に「公民館費」の節が設けられる。
昭和47年 (1972)	8. 29～30 第10回東海北陸公民館大会 (名古屋中小企業センター：600名)	4. 30 帝国地方行政学会「全国公民館名鑑」刊行
昭和48年 (1973)	7. 10～11 第11回東海北陸公民館大会 (富山県民会館：1,042名)	
昭和49年 (1974)	7. 22～23 社会教育法施行25周年記念第12回東海北陸公民館大会 (伊勢市観光会館：651名) 例年の優良職員表彰の他に各県1名の功労者を記念表彰	6. 10 この年はじめて文部大臣が優良公民館職員を表彰
昭和50年 (1975)	9. 11～12 第13回東海北陸公民館大会 (石川県社会教育センター：620名) 10. 16～17 第1回公民館振興市町村長連盟研修会 (鶴来町中央公民館(石川県)：町村長205名)	7. 31 社会教育審議会答申「市町村における社会教育指導者の充実強化の為の施策について」
昭和51年 (1976)	7. 29～30 社会教育法施行30周年記念第14回東海北陸公民館大会 (大垣市文化会館：645名) 功労者記念表彰	11. 25 皇太子・同妃両殿下をお迎えし、第25回全国公民館大会を国立教育会館で開催
昭和52年 (1977)	8. 25～26 第15回東海北陸公民館大会 (武生市中央公民館：655名) 功労者を記念表彰	10. 12～13 第26回全国公民館大会開催(新潟県民会館) 以後、政府予算編成期に東京で開催
昭和53年 (1978)	8. 23～24 第16回東海北陸公民館大会 (名古屋市中企業センター：680名)	10. 23～24 第1回全国公民館研究集会開催(高松市ほか) 12. 21 第25回全国公民館振興大会開催(赤坂プリンスホテル(東京)) 以後、毎年同会場で開催
昭和54年 (1979)	8. 27～28 社会教育法施行30周年記念第17回東海北陸公民館大会 (富山県民会館：918名) 11. 13～14 第2回全国公民館研究集会 (岐阜市市民会館：1,859名) 功労者記念表彰	4. 1 公民館建設費の国庫補助金が127億6千万円と最高額に達する。 5. 1 公民館総合補償制度を採用
昭和55年 (1980)	8. 26～27 第18回東海北陸公民館大会 (伊勢市観光文化会館：816名)	4. 1 公民館の歌・公民館音頭(A面)、公民館式典用音楽(B面)のレコードできる。
昭和56年 (1981)	9. 10～11 第19回東海北陸公民館大会 (石川県婦人生活会館：786名)	6. 11 中央教育審議会答申「生涯教育について」
昭和57年 (1982)	8. 31～9. 1 第20回記念東海北陸公民館大会 (岐阜市市民会館：883名) 功労者記念表彰	2. 10 「公民館のあるべき姿と今日的指標・総集版」を全公連から出版
昭和58年 (1983)	8. 30～31 第21回東海北陸公民館大会 (敦賀市文化センター：924名)	5. 23 全公連専門委員会への諮問「生涯学習時代に即応した公民館のあり方」中間報告
昭和59年 (1984)	8. 30～31 第22回東海北陸公民館大会 (蒲郡市市民会館：852名) 11. 18～19 第7回全国公民館研究集会 (武生市文化センター：1,410名)	6. 2 全公連専門委員会「生涯教育時代に即応した公民館のあり方」答申 8. 21 臨時教育審議会発足
昭和60年 (1985)	8. 29～30 第23回東海北陸公民館大会 (富山県民会館：1,056名)	10. 1 公民館職員対象「新総合医療保険・養老保険」制度採用
昭和61年 (1986)	8. 28～29 第24回東海北陸公民館大会 (伊勢市観光会館：1,080名)	11 第1回国民文化祭開催(東京都)

年	東海北陸地区の主な動き	全国の主な動き
昭和62年 (1987)	8. 27～28 第25回記念東海北陸公民館大会 (金沢市観光文化会館：1,352名) 功労者記念表彰	7. 1 全公連35年史刊行 8. 7 臨時教育審議会最終答申
昭和63年 (1988)	9. 1～2 第26回東海北陸公民館大会 (岐阜市民会館：1,178名)	7. 1 文部省機構改革により社会教育局を廃し、 「生涯学習局」発足
平成元年 (1989)	9. 1～2 第27回東海北陸公民館大会 (富山県民会館：1,215名) 10. 24～25 第14回全国公民館研究集会 (蒲郡市民会館：1,215名)	7. 5 第14期中央教育審議会生涯学習専門委員会発足 11. 26～27 第1回生涯学習フェスティバル (千葉：幕張メッセ)
平成2年 (1990)	8. 30～31 第28回東海北陸公民館大会 (愛知文化講堂：1,388名)	6. 30 生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律(生涯学習振興法)
平成3年 (1991)	9. 25～26 第29回東海北陸公民館大会 (福井市フェニックスプラザ：1,728名)	6. 11 生涯学習審議会「公民館の整備・運営の在り方について」(中間報告)
平成4年 (1992)	9. 3～4 第30回記念東海北陸公民館大会 (三重県阿児町アリーナ：1,329名) 功労者記念表彰	7. 29 生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」
平成5年 (1993)	9. 2～3 第31回東海北陸公民館大会 (七尾市サンライフプラザ：1,573名)	2. 25 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告「社会教育関係職員の資格制度の見直し等」
平成6年 (1994)	9. 29～30 第32回東海北陸公民館大会 (岐阜市民会館：1,486名)	
平成7年 (1995)	11. 28～29 第33回東海北陸公民館大会 (福井市フェニックスプラザ：1,864名)	
平成8年 (1996)	8. 29～30 第34回東海北陸公民館大会 (愛知芸術文化センター：1,570名)	4. 24 生涯学習審議会答申「地域における生涯学習機会の充実方策について」
平成9年 (1997)	10. 23～24 第35回記念東海北陸公民館大会を第20回全国公民館研究集会と併催 (富山市芸術文化ホール：2,128名) 功労者記念表彰	3. 31 地方分権の推進のため公民館の施設整備費補助制度廃止される。
平成10年 (1998)	8. 27～28 第36回東海北陸公民館大会 (三重県総合文化センター：1,414名)	8 特定非営利活動促進法(NPO法) 9 生涯学習審議会答申「社会の変化に対応した今後の社会教育行政の在り方について」
平成11年 (1999)	8. 26～27 社会教育法施行50周年記念第37回東海北陸公民館大会 (小松市公会堂(石川県)：1,429名)	6. 9 生涯学習審議会答申「生活体験・自然体験が日本の子どもの心を育む」 7. 16 「地方分権の推進を図るための関係法律整備等に関する法律」公布(社会教育法等一部改正：平成12年4.1施行) 7. 30 民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(PFI法)
平成12年 (2000)	8. 24～25 第38回東海北陸公民館大会 (大垣市民会館・大垣市サイトピアセンター：1,502名)	4. 14 家庭教育学習の拠点としての公民館の充実について
平成13年 (2001)	8. 23～24 第39回東海北陸公民館大会 (福井市フェニックスプラザ・福井市勤労婦人センター・福井県職員会館：1,860名)	1. 6 IT基本法 1. 25 文部科学省「21世紀教育新生プラン」 11. 16 全国公民館連合会創立50周年記念大会
平成14年 (2002)	8. 29～30 第40回東海北陸公民館大会 (稲沢市民会館・稲沢市勤労福祉会館・稲沢市総合文化センター：1,631名)	7. 29 中央教育審議会答申「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」
平成15年 (2003)	10. 16～17 第41回東海北陸公民館大会 第26回全国公民館研究集会 (三重県総合文化センター・アスト津・教育文化会館：2,088名)	3. 20 中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」 6. 6 「公民館の設置及び運営に関する基準」告示
平成16年 (2004)	8. 26～27 第42回東海北陸公民館大会 (富山県民会館・富山国際会議場他：1,649名)	3. 29 中央教育審議会生涯学習分科会審議経過報告「今後の生涯学習の振興方策について」

年	東海北陸地区の主な動き	全国の主な動き
平成17年 (2005)	9. 1～ 2 第43回東海北陸公民館大会 (石川県立生涯学習センター・金沢市観 光会館・金沢21世紀美術館他 ：1,395名)	7. 1 文部科学省通知「社会教育施設等を活用した 裁判員制度に係る教育・啓発活動の推進につ いて」 9. 27 文部科学省通知「地域における防犯教育・防犯 活動及び防犯ボランティア活動の推進について」 10. 24 文部科学省通知「地域における防災に係る教育 ・啓発活動の推進について」
平成18年 (2006)	8. 24～25 第44回東海北陸公民館大会 (ライフポートとよはし・豊橋市役所 ・豊橋市民センター・豊橋市商工会議 所他：1,336名)	12. 22 教育基本法改正
平成19年 (2007)	8. 23～24 第45回東海北陸公民館大会 (福井市フェニックスプラザ・福井県国 際交流会館・福井市中央公民館他 ：1,508名)	4. 1 放課後子どもプラン開始
平成20年 (2008)	9. 25～26 第46回東海北陸公民館大会 (長良川国際会議場・未来会館・岐阜県 民文化ホール他：1,223名)	2. 19 中央教育審議会答申「新しい時代を切り拓 く生涯学習の振興方策について」 6. 11 社会教育法の一部を改正する法律公布・施行 学校支援地域本部事業（文部科学省）
平成21年 (2009)	※ 東海北陸公民館大会は休会	10. 15～16社会教育法制定60周年記念全国公民館研修大会 開催（東京）
平成22年 (2010)	10. 14～15 第47回東海北陸公民館大会 第32回全国公民館研究集会 (石川県立音楽堂・金沢市文化ホール・ 石川生涯学習センター他：1,270名)	4. 文部科学省実証研究委託「社会教育による地域 の社会教育強化プロジェクト」 6. 閣議「新しい公共」宣言
平成23年 (2011)	10. 13～14 第48回東海北陸公民館大会 (桑名市民会館・メディアライヴ・ 桑名市中央公民館他：987名)	3. ～ 3.11東日本大震災で被災地公民館、社会教育団 体等が避難・復旧復興活動に大きな役割を果た す。 8. 20 公民館における災害対策特別研修会（東京）
平成24年 (2012)	9. 6～ 7 第49回東海北陸公民館大会 (富山県民会館・富山国際会議場・北日 本新聞ホール・高志会館他：1,536名)	4. 1 全国公民館連合会、公益社団法人化
平成25年 (2013)	10. 9～10 第50回東海北陸公民館大会 (半田市福祉文化会館・半田市民交流プラ ザ：1,210名)	4. 文部科学省新規事業「公民館等を中心とした社 会教育活性化支援プログラム」
平成26年 (2014)	10. 9～10 第51回東海北陸公民館大会 (福井市フェニックスプラザ・福井県国際 交流会館・福井市地域交流プラザ他：1,419名)	3. 優良公民館表彰が最優秀館、優秀館を選定する方式 に変更 第1回優秀館に福井市社北公民館が選ばれる。
平成27年 (2015)	9. 10～11 第52回東海北陸公民館大会 (富山県民会館・富山市民プラザアンサン ブルホール・北日本新聞ホール・いきい きKAN多目的ホール他：1,474名)	4. 「学びによる地域力活性化プログラム普及・啓発 事業」開始
平成28年 (2016)	10. 20～21 第38回全国公民館研究集会 第53回東海北陸公民館大会岐阜大会 (高山市 飛騨・生活文化センター：1,068名)	全国7ブロック公民館大会が全国公民館研究集会 の冠を付しての開催となる。（7年に一度は首都 圏開催）
平成29年 (2017)	3. 31 三重県公民館連絡協議会 解散 10. 19～20 第39回全国公民館研究集会 第54回東海北陸公民館大会石川大会 (金沢歌劇座・石川県文教会館他：1,241名)	4. 文部科学省社会教育課の「公民館振興係」が「連 携推進係」に変更
平成30年 (2018)	※ 東海北陸公民館大会は休止	11. 1～ 2 第40回全国公民館研究集会東京大会 (会場：日本青年館)
令和元年 (2019)	10. 17～18 第41回全国公民館研究集会 第55回東海北陸公民館大会愛知大会 (刈谷市総合文化センター・ 刈谷市産業振興センター)	4. 1 新・放課後子どもプラン開始
令和2年 (2020)	※ 新型コロナウイルスの感染拡大により大会延期	4. 16 全国に新型コロナウイルスで初の緊急事態宣言 (～5. 25) 公民館でも「新しい生活様式」を踏まえた利用 が求められる。
令和3年 (2021)	11. 11～12 第43回全国公民館研究集会 第56回東海北陸公民館大会福井大会 (福井市フェニックスプラザ・ハビリン・ 福井県教育センター・福井県国際交流会館)	2. 17 新型コロナウイルスワクチン接種開始

東海北陸公民館大会表彰 受賞者一覧

回	石 川 県	岐 阜 県	福 井 県	愛 知 県	富 山 県	三 重 県
第1回 昭和38年 (金沢市)	輪 泉 信 竜 水 上 浩 二	—	加 藤 新之助 今 野 義 雄	伊 藤 俊 行 竹 内 京 司	松 山 富 雄 土 肥 和 平	寺 本 秀 俊 和 泉 弘
第2回 昭和39年 (岐阜市)	大 薮 清 隆 中 田 正 雄	田 中 保 広 田 中 繁 雄	川 田 彰 高 野 新 助	伊与田 通雄 鈴 木 兼太郎	大 田 栄太郎 上 田 正 一	内 藤 寿 雄 森 和 雄
第3回 昭和40年 (福井市)	森 岡 弥佐久 木 越 太美夫	栗 山 昭 勅使河原 憲一	吉 村 久 枝 末 政 松 伊	大 洞 健 造 内 山 功	茂 沢 清 済 長 沢 勝	村 田 か よ 山 口 守 之
第4回 昭和41年 (名古屋市)	堀 下 栄 作 山 盛 栄	服 部 俊 三 岡 本 篤	岩 堀 健 彦 中 島 孝 儀	山 田 鎌二郎 柿 谷 茂	四十物 常 二 河 合 外 二	須 藤 勝 見 尾 崎 正 明
第5回 昭和42年 (高岡市)	船 田 一 雄 近 岡 和 男	河 瀬 守 男 樹 神 弘	加 藤 哲 二 辻 子 富 蔵	広 浜 武 雄 鈴 木 類 治	鶴 居 孫之函 今 井 博	水 野 輝 山 口 達 雄
第6回 昭和43年 (松阪市)	後 藤 為 次 東 平 正 太	萩 本 仙 助 佐 藤 三 三	前沢 忠左衛門 山 本 公 慧	平 松 稔 酒 井 勝	石 田 吉 雄 寺 林 古 平	水 川 博 義 市 川 蔵
第7回 昭和44年 (金沢市)	喜 田 美由喜 山 本 盛 賢	大 岩 裕 直 村 井 奥 助	藤 永 実 川久保 幸 輝	伊 藤 留 吉 岡 安 磯 雄	高 橋 源 重 木 村 辰 雄	林 英 房 本 覚 裕
第8回 昭和45年 (岐阜市)	池 田 幸 雄 源 恒 夫	宮 田 豊 次 篠 田 清 音	田 中 芳 助 岩 泉 喜 一	石 原 泰 郎 冗 下 光 幸	南 保 金 作 浜 手 弘 一	小 川 進 中 尾 八百治
第9回 昭和46年 (福井市)	福 田 秀 三 片 山 雅 尚	亀 山 喜 一 肥 田 正 雄	伊 藤 治 志 小 川 豊太郎	稲 垣 福 次 山 本 道三郎	九 里 道 守 能 松 義 次	中 村 謙 司 林 次 男
第10回 昭和47年 (名古屋市)	山 岸 善 二 江 尻 芳太郎	間 宮 昇 渡 辺 三 吉	酒 井 定 次 岩 崎 徳 夫	永 井 栄 重 宮 本 秀 吉 黒 田 毅	高 田 長一郎 佐 野 豊 蔵	稲 垣 白 洋 長 松 尚 子
第11回 昭和48年 (富山市)	元 谷 信 也 川 端 一 治	川 出 繁 椿 井 隆 信	永田 金左衛門 松 村 きみ子	浅 井 啓 吉 加 藤 泉	島 津 武 男 高 箱 宗 一	辻 隆 次 中 井 幹
第12回 昭和49年 (伊勢市)	川 中 大 二 桶 田 耕 二 功労者 谷 口 正 幸	日 比 屋系の 林 秀 一 功労者 青 木 秀 英	池 田 一 吉 沢 崎 博 功労者 中 島 孝 儀	榊 原 幸 平 吉 井 健之助 功労者 竹 木 勝 一	高 石 宗 義 山 田 一 磨 功労者 岩 城 俊 雄	幹 治 男 中 川 満 智 功労者 若 葉 浩
第13回 昭和50年 (金沢市)	清 水 文 男 竹 本 義 三	岡 崎 義 也 坪 井 次郎	芦 原 恵 明 石 丸 正 郎	藤 井 昌 敏 中 根 治	松 平 源 治 円 治 吉	奥 山 学 中 嶋 文一郎
第14回 昭和51年 (大垣市)	池 下 照 久 辻 清 栄 功労者 佐 藤 令 久 佐 藤 令 久 雄 博	根 岸 秀 典 野 田 敏 雄 功労者 旧 井 勇 旧 井 勇	前田 三右衛門 向 島 正 志 功労者 土 井 勲 土 井 勲	鶴 飼 繁 雄 田 村 俊 夫 功労者 野 村 正 直 野 村 正 直	辻 辺 源 寛 渡 辺 源 治 功労者 奥 田 栄 助 奥 田 栄 助	齊 藤 賢 雄 西尾 利左衛門 功労者 伴 野 二三男 伴 野 二三男
第15回 昭和52年 (武生市)	西 山 久 雄 清 伎 博 功労者 山 本 松 雄	藤 村 千 萬 伏 屋 文 枝 功労者 服 部 俊 一	高島 善兼衛門 竹 内 徳 二 功労者 井 尾 治郎工門	伊 吹 安太郎 岩 瀬 澄 男 功労者 榎 本 栄	長井 長左工門 日出嶋 哲 大 功労者 青 山 王	田 畑 佳 子 川 村 豊 治 功労者 高 山 良次郎
第16回 昭和53年 (名古屋市)	釜 田 弘 柏 野 美恵子	長 谷 部 郎 中 島 春 生	木 村 朝 次 佐 竹 清兵衛	市 川 寂 正 野 村 清 助	宮 野 正 夫 稲 垣 秀 敏	松 尾 梅 治 杉 尾 武 臣
第17回 昭和54年 (富山市)	堀 内 一 世 根 石 時 子 功労者 竹 田 六之丞	渡 辺 重 雄 大 脇 春 雄 功労者 浅 井 敏	高 橋 太 蔵 三田村 遼 功労者 藤 永 実	佐 藤 英 雄 鈴 木 孝 一 功労者 花 木 篤 雄	島 上 正 三 水 島 近太郎 功労者 河 合 外 二	北 主 計 早 川 勝 彦 功労者 南 良 文
第18回 昭和55年 (伊勢市)	泉 口 智 子 西 本 久 平	香 川 義 昌 広 江 禎 策	羽 生 文 雄 納 村 一 雄	武 木 健 彦 羽 田 弘	岩 城 秀 二 片 岡 作 蔵	武 田 善 悟 小 川 広 巳

回	石 川 県	岐 阜 県	福 井 県	愛 知 県	富 山 県	三 重 県
第19回 昭和56年 (金沢市)	和田 正 明 中 桐 一 男	古 家 恒 男 一 色 謙 正	久津見 守 雄 五十嵐左右工門	峯 神 健 彦 山 本 松次郎	折 谷 隆 一 斉 藤 義 夫	土 井 久 雄 北 村 楠 平
第20回 昭和57年 (岐阜市)	村 山 道 覚 街 孝 志 功労者 太 田 平 二	川 瀬 比 益 功労者 葛 西 博	林 門 脇 慧 功労者 川久保 幸 輝	石 川 圭 式 小早川 誠 一 功労者 宮 田 一 松	杉 林 信 義 扇 一 堂 雄 功労者 鎌 谷 又 平	北 川 一 雄 辻 川 保 助 功労者 小 松 大 演
第21回 昭和58年 (敦賀市)	桜 井 瑞 彦 西 出 俊 彦	小 寺 弘 啓 宮 地 祥	中 村 健之輔 柴 田 円	熊 谷 庄 次 加 藤 新 吾	橋 本 日 尚 竹 原 道 則	加 藤 八 郎 中 西 豊
第22回 昭和59年 (蒲郡市)	東 方 步 中 尾 新 一郎	市 岡 清 一 樋 口 栄 喜	松 田 正 道 中 山 泰 夫	稲 垣 功 吉 見 昌 則	斉 藤 成 正 内 島 弘 之	永 野 甲子生 長 脇 世 知
第23回 昭和60年 (高山市)	若 狭 松 治 中 江 寿 男	安 田 次 郎 福 井 藤 三	錦織三郎立工門 佐々木 基	伊 藤 富 三 松 浦 省 三	斉 藤 清 作 下 田 淑 光	草 川 清 人 西 脇 英 一
第24回 昭和61年 (伊勢市)	亀 田 良 一 寺 本 敏 子	林 人 謙 吉 鈴 人 充	神 戸 秋 穂 田 村 栄 子	鈴 木 英 寿 市 川 英 夫	蟹 谷 宗 信 麻 柄 学	住 沢 博 文 宮 田 和 裕
第25回 昭和62年 (金沢市)	榊 原 衛 能 波 桂 子 功労者 盛 田 義 弘	高 村 覚 成 江 尾 秋 憲 功労者 二 俣 潔	大 道 和 嗣 黒 田 弘 子 功労者 千 葉 治 雄	久 野 時 男 佐 橋 延 務 功労者 橋 本 晴 夫	京 免 豊 年 中 村 寿 美 功労者 川 瀬 茂	鶴 飼 新 平 是 次 文 夫 功労者 山 口 守 之
第26回 昭和63年 (岐阜市)	浜 正 雄 塩 浜 章 良	本 田 輝 明 高 木 正 司	平 林 長十郎 堀 末 野	辻 一 郎 大 沢 和 夫	柴 田 吉 郎 野 村 利 正	安 永 幸 二 岩 崎 孝 太郎
第27回 平成元年 (富山市)	三 谷 二 東 平 正 大	野 村 龍 温 野 田 正 治	増 田 利 博 佐々木 清 美	山 本 信 一 中 野 慶 一	舘 盛 貞 信 吉 井 直 敏	山 下 健 次 南 野 尊 俊
第28回 平成2年 (名古屋市)	中 山 茂 夫 井 田 順 太郎	国 島 五 作 竹 中 敏 子	奥 原 正 子 前 川 孔 子	加 藤 恒 夫 市 井 滋 男	大 窪 直 治 保 田 道 雄	青 木 重 一 房 川 忠 郎
第29回 平成3年 (福井市)	寺 井 勇 吉 小 寺 昭 久	栗 野 博 林 克 司	辻 端 芳 枝 前 田 孝 一	福 岡 正 子 国 村 恵	清 水 亀 作 塚 本 喜 作	城 内 光 夫 橋 居 徳 治
第30回 平成4年 (阿児市)	岡 田 常 二 喜 多 幸 政 功労者 酒 井 正 夫	森 安 忠 敬 功労者 福 島 大 典	六戸部 知 士 水 木 喜 之 功労者 伊 藤 守	岩 田 銃 一 中 島 一 一 功労者 八 田 武	松 向 定 夫 井 村 敏 子 功労者 中 谷 政 治	前 田 敏 治 石 田 茂 明 功労者 森 吉 男
第31回 平成5年 (七尾市)	上 村 一 郎 稲 田 ソト 子	小 川 豊 高 井 文 雄	藤 田 市 郎 久 保 豊 子	加 藤 初 枝 内 田 綿 作	前 出 正 男 坂 井 俊 夫	福 井 嘉 実 田 山 壽 彦
第32回 平成6年 (岐阜市)	北 川 皓 三 定 免 修 一	河 合 二 喜 竹 中 嘉 彦	岡 嶋 雪 雄 矢 尾 たつえ	間 瀬 勲 大 屋 順 彦	山 本 正 光 佐 藤 政 雄	長 末 吉 夫 横 山 堪 江子
第33回 平成7年 (福井市)	谷 内 清 三 川 岸 昭 円	和 田 弘 雄 永 田 賢	中 村 幸 栄 小 林 逸 子	河 合 美智鷹 寺 部 市 三	嶋 崎 直 秀 柴 田 吉 衛	分 部 勝 鈴 木 一 男
第34回 平成8年 (名古屋市)	武 田 長 平 武 谷 泰 子	渡 辺 文 雄 杉 岡 幸	福 島 房 美 竹 田 法 英	鈴 木 美智子 安 井 宮 一	竹 山 信 男 喜 内 忍 郎	望 月 米 子 橋 本 達 夫
第35回 平成9年 (富山市)	古 今 哲 也 束 田 修 功労者 神 田 淳 一	安 田 範 和 功労者 川 合 勝	松 本 昭 雄 吉 田 文 子 功労者 山田次郎左工門	南 谷 隆 昌 鈴 木 敏 成 功労者 高 橋 孝 雄	加 藤 敏 夫 池 田 実 功労者 佐 藤 政 雄	一 叱 橋 太郎 森 坂 亨 司 功労者 高 橋 薫
第36回 平成10年 (津市)	宮 下 貴 一 松 下 良	宮 川 正 俊 肥 田 昭 男	中 村 義 一 中 嶋 貴 美江	祖父江 登 片 山 浩 治	扇 谷 逸 郎 山 本 直 子	奥 卯 三郎 市之木山 信廣

回	石 川 県	岐 阜 県	福 井 県	愛 知 県	富 山 県	三 重 県
第37回 平成11年 (小松市)	大 都 督 家 田 穰 一	日 比 せ い 鵜 飼 金 一	三反崎三樹三郎 宮 本 明 美	後 藤 一 弘 安 形 伊佐男	山 藤 忠 雄 新 明 公 子	下 川 幸 一 森 川 季 義
第38回 平成12年 (大垣市)	谷内江 昇 竹 垣 賢 雄	小 林 七三子 篠 田 豊	北 川 はる子 経 塚 久 雄	上 田 博 明 中 山 久一郎	広 田 弘 義 福 田 一 男	藺 部 望 佐 野 久 夫
第39回 平成13年 (福井市)	南 恵美子 原 田 洋 子	西 脇 文 夫 大 島 浪 恵	山 下 よし枝 栗 山 祐 子	竹 内 和 也 神 谷 幹 代	榊 田 寛 昭 冲 保 治	寺 本 喜 晴 高 田 峰 昭
第40回 平成14年 (稲沢市)	小 寺 昭 久 春 木 義 勝 松 原 ツユ子	川 合 孝 一 井 戸 一 貢 辻 下 昭	佐 藤 藤 枝 伊 与 智 江 岩 木 弥 恵子	吉 田 直 子 鈴 木 武 一 古 川 晋 一	奥 平 正 黒 部 恒 一 近 藤 國 利	野 田 俊 彦 杉 谷 本 一 勝 竹 本 美
第41回 平成15年 (津市)	杉 森 繁 松 本 清 隆	渡 辺 曩 林 直 光	小 川 義 典 道 正 志 津	毛 利 政 信 大 坪 節 雄	辻 井 浅 信 西 本 久 美子	屋 敷 孝 行 上 垣 勇
第42回 平成16年 (富山市)	東 木 武 彦 腰 広 彦 子	水 谷 圭 三 森 圭 務	大久保 佐智子 菱 川 恵 子	榊 原 正 夫 稲 垣 一	村 上 ふさ子 山 口 希代子	生 駒 忠 司
第43回 平成17年 (金沢市)	池 村 清 孝 市 川 義 夫	船 戸 鉄 夫 佐 古 昭 二	増 田 文 子 高 帛 法 彰	伊 藤 立 静 夏 目 夫	大 納 登 松 本 久 介	前 田 德 吉
第44回 平成18年 (豊橋市)	元 村 善 輝 勝 木 輝 男	不 破 利 兼 内 堀 實 寛	山 田 博 子 窪 田 広 美	石 田 康 弘 篠 原 眞 弓	倉 田 義 夫 西 岡 良 則	内 田 孝 也 杉 本 達
第45回 平成19年 (福井市)	出 島 哲 雄 中 出 義 男	加 藤 隆 一 三田村 智	野 路 恵 子 吉 本 祐 子	森 浩 通 鈴 木 治	竹 中 幸 作 内 橋 政 雄	野 呂 秀 子 東 健 二
第46回 平成20年 (岐阜市)	西 田 愛 子 魚 野 孝次郎	土 井 文 子 河 村 千恵子	吉 田 晴 美 山 口 郁 恵	山 田 房 江	穴 田 玲 子 稲 谷 久 雄	木 村 宜 裕 澤 田 美 裕子
平成21年	越 田 富滋雄 安 田 信 夫	増 田 勝 治 竹 腰 哲 夫	川 端 由美子 福 岡 和 恵	吉 川 優 一 安 井 広	山 口 吉 弘 丸 山 稔	増 田 晋 作 山 門 和 美
第47回 平成22年 (金沢市)	駒 井 信 一 三 引 善 晴	杉 山 周 三 鵜 飼 さち子	重 野 けいこ 井 上 美 八子	村 橋 善 治 岩 崎 勝 治	吉 野 一 夫 藤 沢 律 子	東 海 やすこ 伊 藤 勝
第48回 平成23年 (桑名市)	金 田 洋 赤 石 一 喜	小 野 浩 一 堀 野 文 男	坂 上 泰 学 岡 田 美由紀	山 田 重 夫 森 川 昌 樹	岡 本 孝 平 田 村 美津子	佐 野 智 子 上垣内 守 雄
第49回 平成24年 (富山市)	出 口 久 一 田多野 和 彦	大 岡 明 臣 稲 葉 勇	荻 野 清 子 森 陽 子	飯 盛 静 男 佐 藤 祐	山 下 忠 平 内 幸 典	神 園 敏 昭 中 川 文 博
第50回 平成25年 (半田市)	楠 孝 司 堂新橋 孝	廣 瀬 桂 浦 田 伸 司	福 嶋 幸 代 仲 保 則 子	青 木 康 廣 鈴 木 由美子	嘉 藤 隆 幸 久 世 よし子	川 北 智 子 米 田 晴 生
第51回 平成26年 (福井市)	余 助 幸 一 畑 下 一 勲	奈 良 洋 美 北 嶋 眞 弓	宮 永 圭 子 中 村 喜美恵	都 築 のり子 高 野 悦 子	荻 野 康 子 高 井 清 高	高 橋 庄 子 児 玉 泰 清
第52回 平成27年 (富山市)	山 本 進 新 谷 美 栄子	芳 田 眞理井 森 本 節 子	杉 本 典 子 直 江 利恵子	茂 田 昇	山 本 武 夫 長 田 弘 子	草 川 あやこ 古 市 仁
第53回 平成28年 (高山市)	山 岸 ひろみ 田 保 勝 男	大 野 裕 美 古 池 孝 文	水 元 賢 治 浅 井 真由美	山 田 茂 義 石 原 由美子	清 原 茂 夫 澤 村 真由美	松 隅 昭 寿 長 尾 信一郎

回	石 川 県	岐 阜 県	福 井 県	愛 知 県	富 山 県	三 重 県
第54回 平成29年 (金沢市)	村 守 俊 樹 佐々木 恵 子	田 中 桂 造 梅 村 春 生	中 村 美沙子 富 坂 妙 子	加 藤 君 枝	島 崎 昌 美 太 田 京 子	—
平成30年	※全国公民館研究集会首都圏開催のため。					
第55回 令和元年 (刈谷市)	細 川 聰 南 寿美代	葛 谷 とみ子 伊 藤 好 一	塚 谷 直 人 伊 與 まゆみ	橋 本 利 和	川 田 真 弓 上 田 一 夫	—
第56回 令和2年 (福井市)	高 山 章 久 野 衛	大 橋 和 義 小酒井 敬 乃	杉 田 美津代 森 瀬 美智子	—	永 田 晉 治 北 村 外志子	—
第56回 令和3年 (福井市)	高 辻 聰 竹 本 由紀子	山 田 郁 恵 野 村 利 道	重 森 俊 道 荒 木 幹 夫	野 田 満 男	岡 田 千 春 水 井 勤	—

東海北陸地区の文部科学大臣表彰 受賞公民館一覧

〔令和2年3月現在〕

昭和23年度

富山県 東砺波郡福野町高瀬公民館
石川県 輪島市大屋公民館
福井県 勝山市勝山公民館

昭和24年度

石川県 金沢市中央公民館
福井県 敦賀市中央公民館
岐阜県 益田郡金山町管田公民館
愛知県 碧海郡桜井町公民館
三重県 鈴鹿市庄野公民館

昭和25年度

石川県 石川郡松任町石川公民館
福井県 三方郡公民館南部分館

昭和26年度

富山県 東砺波郡城端町蕨谷地区公民館
石川県 小松市中央公民館
愛知県 犬山市立楽田公民館
三重県 一志郡一志町波瀬公民館

昭和27年度

富山県 小矢部市中央公民館
石川県 石川郡鶴来町公民館
岐阜県 中津川市落合公民館
愛知県 丹羽郡大口町中央公民館
三重県 度会郡御薮村公民館

昭和28年度

富山県 東砺波郡城端町公民館
石川県 金沢市瓢箪町公民館
岐阜県 不破郡垂井町公民館
愛知県 額田郡幸田町中央公民館
三重県 尾鷲市中央公民館

昭和29年度

富山県 下新川郡入善町中央公民館
石川県 石川郡野々市町富奥公民館
三重県 阿山郡大山田村阿波公民館

昭和30年度

富山県 上新川郡大沢野町公民館
石川県 加賀市大聖寺公民館
岐阜県 中津川市中津公民館
三重県 一志郡美杉村公民館

昭和31年度

富山県 黒部市中央公民館
石川県 河北郡津幡町中央公民館
福井県 大野市大野公民館
岐阜県 加茂郡八百津町和知公民館
愛知県 瀬戸市中央公民館

昭和32年度

石川県 石川郡松任町御手洗公民館
三重県 三重郡川越町公民館

昭和33年度

石川県 石川郡鳥越村公民館

昭和34年度

石川県 能美郡寺井町公民館

昭和35年度

なし

昭和36年度

石川県 石川郡松任町山島公民館
三重県 上野市公民館

昭和37年度

愛知県 名古屋市立守山公民館

昭和38年度

なし

昭和39年度

なし

昭和40年度

なし

昭和41年度

岐阜県 中津川市落合公民館
愛知県 知多郡大府町公民館

昭和42年度

愛知県 蒲郡市立府相公民館
三重県 尾鷲市中央公民館

昭和43年度

石川県 鹿島郡鳥屋町公民館

昭和44年度

石川県 金沢市芳斉公民館
三重県 津市中央公民館

昭和45年度

福井県 勝山市遅羽公民館

昭和46年度

石川県 鹿島郡中島町公民館
福井県 大野市富田公民館
岐阜県 恵那郡山岡町公民館

昭和47年度

石川県 鹿島郡鹿西町公民館
岐阜県 不破郡垂井町公民館

昭和48年度

石川県 河北郡七塚町公民館
福井県 丹生郡朝日町中央公民館
愛知県 東海市上野公民館
三重県 名張市公民館

昭和49年度

石川県 能美郡根上町公民館
福井県 武生市中央公民館
岐阜県 高山市公民館
愛知県 西加茂郡三好町中央公民館

昭和50年度

石川県 石川郡鶴来中央公民館
福井県 坂井郡三国町中央公民館

昭和51年度

石川県 河北郡宇ノ気町中央公民館
福井県 鯖江市鯖江公民館
岐阜県 羽島郡笠松町公民館

昭和52年度

石川県 羽咋郡富来町中央公民館
福井県 福井市順化公民館

昭和53年度

石川県 石川郡野々市町中央公民館
岐阜県 羽島郡川島町公民館

昭和54年度

石川県 河北郡内灘町内灘中央公民館
愛知県 知多市立八幡公民館
三重県 桑名郡長島町公民館

昭和55年度

石川県 羽咋市立羽咋公民館
福井県 坂井郡三国町雄島公民館
岐阜県 山県郡高富町中央公民館

昭和56年度

石川県 羽咋郡志賀町中央公民館
岐阜県 養老郡養老町中央公民館

昭和57年度

石川県 穴水町立穴水公民館
岐阜県 揖斐川町中央公民館
愛知県 春日井市立知多公民館

昭和58年度

富山県 高岡市立中央公民館
石川県 松任市中央公民館
岐阜県 岐南町中央公民館
愛知県 東海市立文化センター

昭和59年度

石川県 金沢市城南公民館
福井県 春江町公民館
岐阜県 柳津町中央公民館

昭和60年度

石川県 七尾市徳田公民館
福井県 敦賀市中央公民館
岐阜県 神戸町中央公民館
愛知県 飛島村中央公民館

昭和61年度

富山県 高岡市立西部公民館
石川県 珠洲市立中央公民館
福井県 三国町新保公民館
岐阜県 池田町中央公民館
愛知県 岩倉市公民館

昭和62年度

石川県 押水町中央公民館
福井県 福井市社南公民館
岐阜県 中津川市中津川公民館
愛知県 安城市中央公民館
三重県 楠町中央公民館

昭和63年度

石川県 美川町中央公民館
福井県 金津町中央公民館
岐阜県 伊自良村中央公民館
愛知県 常滑市立南陵公民館
三重県 阿山町公民館

平成元年度

富山県 富山市立豊田公民館
福井県 松岡町松岡中央公民館
岐阜県 真正町中央公民館
愛知県 扶桑町中央公民館
愛知県 小坂井町中央公民館
三重県 河芸町中央公民館

平成2年度

富山県 小杉町立太閤山中部公民館
石川県 七尾市矢田郷公民館
福井県 織田町中央公民館
岐阜県 瑞浪市中央公民館
愛知県 蟹江町中央公民館

平成3年度

富山県 富山市立岩瀬公民館
福井県 福井市中藤島公民館
岐阜県 笠原町中央公民館
愛知県 大府市大府公民館

平成4年度

石川県 津幡町中条公民館
福井県 福井市旭公民館
岐阜県 安八町中央公民館

平成5年度

石川県 小松市立稚松公民館
福井県 福井市東藤島公民館
岐阜県 美濃市中央公民館
愛知県 安城市桜井公民館

平成6年度

富山県 魚津市本江公民館
石川県 金沢市額公民館
福井県 武生市国高公民館
岐阜県 可児市今渡公民館
愛知県 犬山市南部公民館
三重県 名張市桔梗が丘公民館

平成7年度

富山県 高岡市立野村公民館
石川県 輪島市立野町公民館
岐阜県 神岡町中央公民館
三重県 二見町公民館

平成 8 年度

富山県 婦中町中央公民館
石川県 松任市山島公民館
岐阜県 中津川市苗木公民館
愛知県 藤岡町中央公民館
三重県 多気町中央公民館

平成 9 年度

富山県 福光町立福光公民館
石川県 金沢市菊川町公民館
岐阜県 羽島市立中央公民館
愛知県 尾西市南部公民館

平成 10 年度

富山県 高岡市立東部公民館
石川県 能都町立宇出津公民館
岐阜県 海津町海津公民館
愛知県 安城市北部公民館
三重県 久居市立中央公民館

平成 11 年度

富山県 富山市立上条公民館
石川県 珠洲市立直公民館
岐阜県 関市中央公民館
愛知県 瀬戸市效範公民館
三重県 亀山市立中央公民館

平成 12 年度

富山県 小杉町立三ヶ公民館
石川県 松任市立宮保公民館
岐阜県 美濃加茂市中央公民館
愛知県 新城市西部公民館

平成 13 年度

富山県 富山市立長岡公民館
石川県 珠洲市立飯田公民館
福井県 福井市東安居公民館
岐阜県 宮村中央公民館
岐阜県 穂積町中央公民館
愛知県 七宝町中央公民館

平成 14 年度

富山県 砺波市立林公民館
石川県 七尾市石崎公民館
福井県 大野市下庄公民館
岐阜県 恵那市中央公民館
岐阜県 安八町中央公民館
愛知県 安城市南部公民館

平成 15 年度

富山県 福岡町立大滝公民館
石川県 輪島市立輪島公民館
福井県 福井市東郷公民館
福井県 三国町中央公民館
岐阜県 八幡町中央公民館
岐阜県 可児市下恵土公民館
愛知県 豊田市生涯学習センター松平交流館
愛知県 知多市中部公民館
三重県 名張市つつじが丘公民館

平成 16 年度

富山県 宇奈月町中央公民館
富山県 小矢部市立北蟹谷公民館
石川県 穴水町立諸橋公民館
福井県 福井市啓蒙公民館
福井県 武生市南公民館
岐阜県 各務原市西生涯学習センター
岐阜県 飛騨市古川町公民館
愛知県 江南市立古知野北公民館
愛知県 足助町公民館

平成 17 年度

富山県 高岡市立平米公民館
石川県 輪島市立河原田公民館
福井県 福井市岡保公民館
福井県 越前市岡本公民館
岐阜県 多治見市立養正公民館
岐阜県 上石津町立中央公民館
愛知県 田原市野田市民館
愛知県 尾張旭市中央公民館
三重県 紀北町東長島公民館

平成 18 年度

富山県 富山市立保内公民館
石川県 金沢市西南部公民館
石川県 能登町立秋吉公民館
福井県 福井市春山公民館
福井県 小浜市加斗公民館
岐阜県 美濃市藍見公民館
岐阜県 御嵩町立伏見公民館
愛知県 稲沢市大里西公民館
愛知県 一色町公民館

平成 19 年度

富山県 高岡市立古府公民館
富山県 砺波市立太田公民館
石川県 能登町立不動寺公民館
福井県 福井市麻生津公民館
福井県 越前市味真野公民館
岐阜県 瑞穂市巣南公民館
岐阜県 多治見市市之倉公民館
愛知県 阿久比町立草木公民館
愛知県 豊川市御油公民館

平成 20 年度

富山県 上市町立南加積公民館
石川県 七尾市相馬公民館
石川県 白山市立加賀野公民館
福井県 大野市大野公民館
福井県 小浜市中名田公民館
岐阜県 多治見市南姫公民館
岐阜県 坂祝町中央公民館
愛知県 弥富市中央公民館
愛知県 碧南市新川公民館

平成21年度

富山県 魚津市下中島公民館
石川県 加賀市立動橋公民館
石川県 七尾市袖ヶ江公民館
福井県 福井市湊公民館
福井県 若狭町熊川公民館
岐阜県 郡上市川合公民館
岐阜県 多治見市旭ヶ丘公民館
愛知県 東郷町中央公民館
愛知県 蒲郡市大塚公民館

平成22年度

富山県 入善町立飯野公民館
富山県 小矢部市立藪波公民館
石川県 白山市立御手洗公民館
石川県 輪島市立鳳至公民館
福井県 美浜町中央公民館
福井県 越前市武生東公民館
岐阜県 恵那市明智公民館
岐阜県 関ヶ原町立関ヶ原中央公民館
愛知県 扶桑町中央公民館
愛知県 豊田市生涯学習センター若林交流館

平成23年度

富山県 魚津市大町公民館
富山県 南砺市高瀬西公民館
石川県 珠洲市立大谷公民館
石川県 加賀市立大聖寺公民館
福井県 福井市円山公民館
福井県 鯖江市立待公民館
岐阜県 恵那市岩村コミュニティセンター
岐阜県 郡上市相生公民館
愛知県 武豊町立中央公民館
愛知県 豊橋市東陽地区市民館

平成24年度

富山県 小矢部市立若林公民館
富山県 富山市立五福公民館
石川県 金沢市大野町公民館
石川県 輪島市立西保公民館
福井県 福井市森田公民館
福井県 越前市神山公民館
岐阜県 可児市桜ヶ丘公民館
岐阜県 恵那市上矢作コミュニティセンター
愛知県 安城市西部公民館
愛知県 一宮市大和公民館

平成25年度

富山県 魚津市村木公民館
富山県 高岡市立牧野公民館
石川県 白山市立鶴来公民館
石川県 珠洲市立蛸島公民館
福井県 福井市社北公民館
福井県 鯖江市豊公民館
岐阜県 多治見市精華公民館
岐阜県 郡上市口明方公民館
愛知県 田原市衣笠公民館
愛知県 豊明市南部公民館

平成26年度

富山県 滑川市中加積地区公民館
富山県 高岡市立成美公民館
石川県 金沢市東浅川公民館
石川県 輪島市立鶴巣公民館
福井県 小浜市今富公民館
福井県 越前市花筐公民館
岐阜県 瑞浪市稲津公民館
岐阜県 御嵩町立御嵩公民館
岐阜県 多治見市学習館
愛知県 西尾市吉良町公民館
愛知県 あま市甚目寺公民館

平成27年度

富山県 立山町立新瀬戸公民館
富山県 氷見市窪公民館
石川県 七尾市高階公民館
石川県 加賀市立片山津公民館
福井県 福井市安居公民館
福井県 おおい町名田庄公民館
岐阜県 土岐市立鶴里公民館
岐阜県 郡上市立西和良公民館
愛知県 半田市立住吉公民館
愛知県 豊川市豊川公民館

平成28年度

富山県 上市町立柿沢公民館
富山県 砺波市立青島公民館
石川県 羽咋市立千里浜公民館
石川県 白山市立林中公民館
福井県 福井市和田公民館
福井県 越前市大虫公民館
岐阜県 郡上市白鳥地域公民館
岐阜県 恵那市中野方コミュニティセンター
愛知県 大口町中央公民館
愛知県 碧南市中部公民館

平成29年度

富山県 黒部市立下立公民館
富山県 砺波市立梅檀山公民館
石川県 津幡町刈安公民館
石川県 珠洲市立若山公民館
福井県 鯖江市北中山公民館
福井県 福井市木田公民館
岐阜県 郡上市明宝地区公民館
愛知県 蒲郡市形原公民館
愛知県 尾張旭市瑞鳳公民館

平成30年度

富山県 魚津市加積公民館
富山県 南砺市南山田公民館
石川県 白山市立湊公民館
石川県 能登町立三波公民館
福井県 越前市岡本公民館
福井県 福井市清水西公民館
岐阜県 瑞浪市釜戸公民館
岐阜県 多治見市小泉公民館
愛知県 幸田町中央公民館
愛知県 愛西市佐織公民館

令和元年度

富山県 朝日町立大家庄公民館
富山県 射水市三ヶコミュニティセンター
石川県 金沢市瓢箪町公民館
石川県 加賀市立金明公民館
石川県 七尾市能登島地区コミュニティセンター
福井県 福井市酒生公民館
福井県 永平寺町永平寺公民館
岐阜県 多治見市脇之島公民館
岐阜県 瑞浪市日吉公民館
岐阜県 恵那市笠置コミュニティセンター
愛知県 大府市立北山公民館
愛知県 豊橋市本郷地区市民館

令和2年度

富山県 小矢部市立松沢公民館
富山県 黒部市立若栗公民館
石川県 白山市立吉野谷公民館
石川県 津幡町条南公民館
福井県 越前市南中山公民館
福井県 福井市清明公民館
岐阜県 瑞浪市陶公民館
岐阜県 美濃市洲原公民館
岐阜県 多治見市根本交流センター
愛知県 北名古屋市中公民館
愛知県 知立市中央公民館

東海北陸公民館連合会 会 則

(名称組織)

第1条 本会は、東海北陸公民館連合会（以下「連合会」という）と称し、石川県、岐阜県、福井県、愛知県、富山県、三重県の公民館連合会（以下「県公連」という）を以て組織とする。

(事務所)

第2条 本連合会の事務所は、当番県の県公連事務所に置く。

(目 的)

第3条 本連合会は、東海北陸6県の公民館相互の連絡を密にし、公民館活動の振興発展をはかることを目的とする。

(事 業)

第4条 本連合会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- 1 東海北陸公民館大会（全国公民館研究集会を兼ねる）の開催
※ただし、全国公民館研究集会が首都圏で開催される年度は、東海北陸公民館大会は開催しない。
- 2 研修会、講演会、協議会等の開催
- 3 資料及び情報の交換
- 4 その他目的達成のため必要な事

(役職員及び任期)

第5条 本連合会に次の役職員を置き、任期は1年とする

会 長 1名 副会長 1名 理 事 若干名
事務局長 1名 幹 事 若干名

(役職員の選出及び任務)

第6条 役職員は理事会において選出し、任務は次のとおりとする。

会長は本連合会を代表し、会務を総理する。
副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。
理事は本連合会の会務を審議し、その運営に参画する。
事務局長は本連合会の事務を処理する。
幹事は本連合会の会務に参与する。

(理事会)

第7条 理事会は、県公連から選出された理事によって構成し、毎年当番県において定例理事会を開く。ただし、必要に応じ臨時理事会を開くことができる。

理事会は会長が招集し、これを司会する。
理事会は定数の過半数の出席で成立し、議決は出席者の過半数による。
幹事は理事会に出席する。

(経費及び会計年度)

第8条 本連合会の経費は、毎年度予算の定めるところによる。

本連合会の年度は、4月1日に始まり翌年3月31日で終わることを原則とする。

(会則の変更)

第9条 本会則の改正は、理事会の議決を得なければならない。

(附 則)

- 1 本会則でいう当番県とは、本連合会長の所属県とし、毎年交替制とする。
- 2 本会則は、昭和37年12月5日から施行する。
- 3 本会則は、平成25年11月18日の臨時理事会にて承認、即日施行する。
- 4 本会則は、平成28年2月9日の理事会にて一部改正し、即日施行する。

〔東海北陸公民館大会開催県順の申合せ〕

富山県→岐阜県→石川県→福井県→愛知県

2021年度 (2021年5月1日午後4時～2022年5月1日午後4時)

公民館総合補償制度

本制度は、公益社団法人全国公民館連合会(全公連)の制度です。市町村の公民館および自治公民館、また公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたその他の施設等は、名称を問わずご加入いただけます。指定管理者制度を導入された施設もご加入いただけます。

3つの補償で公民館活動をサポート

1. 行事傷害補償

【災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約)+見舞金制度】

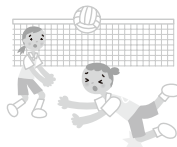
保 険

- 公民館行事参加者のケガを補償
- 公民館利用者のケガを補償
- 行事往復途上のケガを補償
- 行事の事前練習や事前準備、後片付けでのケガを補償
- 食中毒や熱中症を補償

見舞金制度

- 疾病や特定傷害に、疾病死亡弔慰金、疾病入院見舞金をお支払いします。
- 特定災害による損害に、特定災害見舞金をお支払いします。

【補償例】



- バレーボール大会参加者が転倒して負傷。

2. 賠償責任補償

【賠償責任保険(施設所有管理者特約、昇降機特約)】

保 険

- 公民館の施設・設備等*の欠陥や業務運営のミスにより、第三者にケガをさせたり、財物を損壊したことにより、公民館が法律上の賠償責任を負担しなければならない場合に補償

※公民館が所有、使用または管理する財物への賠償事故などは対象になりません。

*施設にある昇降機(エレベーター、エスカレーター)の所有、使用、管理に起因する賠償責任も含まれます。

【補償例】



- テントの張り方が悪く風で飛ばされ、行事来場者の車を破損。

3. 職員災害補償

【普通傷害保険(就業中のみの危険補償特約)+見舞金制度】

保 険

- 公民館事業や業務に携わる方の公民館業務中のケガを補償

見舞金制度

- 公民館事業や業務に携わる方の病気や特定傷害、業務外のケガ、業務中の地震によるケガに死亡弔慰金や入院見舞金をお支払いします。

【補償例】



- 職員が業務中に脚立から転落して負傷。

公民館総合補償制度の特長

(1) 補償範囲や対象者が広い、公民館専用の制度です。

- 全公連が運営する『見舞金制度』に『保険』を組み合わせた公民館や類似公民館の専用の制度で、安心して公民館活動を行っていただけるよう幅広い補償になっています。

★行事傷害補償制度のここがおすすめ★

- 日本国内であれば行事の場所は問いません。 ※別に定める危険な運動中等は対象外です。
- 行事参加者や利用者の居住地は問いません。
- 公民館公認のサークル活動参加者や有償・無償を問わず公民館ボランティアや講師も補償します。
- 公民館が他の団体等の行事に派遣する行事の参加者も補償します。
- 宿泊を伴う行事も対象です。

(2) 年1回の手続きで安心です。

- 年1回の手続きで年間の主催、共催行事が対象になり、個別の行事の通知は不要です。うっかりして保険の手配を忘れる心配がありません。

(3) 掛金の割引制度もあります。

- 同一市町村内で10館以上まとめて加入されると、行事傷害補償制度掛金に割引が適用できます。
- 職員災害補償の保険料には、団体割引25%、過去の損害率による割引20%を適用しています。

このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳しい内容につきましては「2021年度版マニュアル 公民館総合補償制度の手引き」をご覧ください。また、本制度全般のお問い合わせ、資料請求等は、エコー総合補償サービスまたは損保ジャパンまでお寄せください。

■引受保険会社
損害保険ジャパン株式会社
営業開発部第三課
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
TEL 03-3349-3820 FAX 03-6388-0157
(受付時間：平日9:00～17:00)

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)
エコー総合補償サービス株式会社
〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9
TEL : 0120-636-717(通話料無料)
FAX : 0120-226-916(通話料無料)

公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞

下総 皖一 作曲

快活に ♩ = 104



1. へ い わ の は る に あ た ら し く
2. こ こ ろ の は な の に お や か に
3. は た ら く も の の や す ら か に



きょう ど を お こ ら す よ ろ こ び も (こ) み ん か ん の
きょう ど に ひ き る ゆ た の し さ も (こ) み ん か ん の
きょう ど に ひ き る ゆ た の し さ も (こ) み ん か ん の



つ ど い か ら と き け あ う こ こ ろ な う ご や ー か
つ ど い か か ら ま ほ う い な ん む ひ と と ー し
つ ど い か か ら ま ほ う い な ん む ひ と と ー し



に い じ ゆ う の あ い さ を た た え た え よ う
に い じ ゆ う の あ い さ を た た え た え よ う
に い じ ゆ う の あ い さ を た た え た え よ う

公民館の歌 (自由の朝)

山口 晋一 作詞
下総 皖一 作曲

一、平和の春に あたらしく
郷土を興す よろこびも
公民館の つどいから
とけあう心 なごやかに
自由の朝を たたえよう

二、心の花を におやかに
郷土にひらく ゆかしさも
公民館の つどいから
希望を胸に 美しい
文化の泉 くみとろう

三、働くものの 安らかに
郷土に生きる たのしさも
公民館の つどいから
まどいになごむ ひとときに
明日への力 そだてよう

令和3年11月11日発行

第43回 全国公民館研究集会
第56回 東海北陸公民館大会福井大会
第70回 福井県公民館大会

大 会 資 料

発行者

〒918-8135 福井市下六条町14-1 福井県生活学習館内

東海北陸公民館連合会事務局(福井県公民館連合会事務局)

TEL・FAX:0776-41-4077

